

# パートナーに対する暴力のメカニズム:

## Dark Triad と生活史戦略による個人差に対するアプローチ

法政大学大学院人文科学研究科（現：東京大学大学院教育学研究科） 喜入 暁

### 0. 本研究の概要

パートナーへの暴力（intimate partner violence: IPV）発生メカニズムの原因を、個人差に着目し明らかにする。具体的には、Dark Triad パーソナリティ（至近要因）と生活史戦略（究極要因）が IPV を促進することを検証する。

### 1. IPV, Dark Triad, 生活史戦略

本章では、本研究で扱う IPV の社会的・学術的な現状について概観し、IPV メカニズムの進化的基盤、および IPV を規定する個人差として Dark Triad パーソナリティとその究極要因であると考えられる生活史戦略について解説する。

#### 1.1. パートナー間暴力（intimate partner violence: IPV）

- DV, デートバイオレンスを包括的に研究対象に（Ohnishi et al., 2011）
  - － パートナー間暴力は中学生でも発生（Giordano et al., 2010）
  - － 婚姻関係の有無に関わらず暴力の質は同質（Dillon et al., 2013）
- パートナー間の不和（Copp et al., 2015）、ストーキング（Douglas & Dutton, 2001; Melton, 2007）、殺人（Nicolaidis et al., 2003）など様々な問題を引き起こす公衆衛生問題の 1 つ。
  
- 様々な対応がとられている
  - － 社会の対応
    - ✓ DV 防止法の制定（2001 年に施行，その後 4 回の改正）
    - ✓ 避難シェルターの拡充
    - ✓ 認知件数の増加
  - － 古典的な研究
    - ✓ 暴力のサイクルモデル（Walker, 1979）
      - 緊張形成期（パートナーとの緊張関係，一触即発状態）
      - 爆発期（何らかのトリガーによる抑制が効かない暴力の発生）
      - 開放期（ハネムーン期；暴力行為の謝罪，償おうとする行為）
    - ✓ 加害者分類（Holtzworth-Munroe & Stuart, 1994; Table 1.3）
      - 家族限定型（外では普通の人物）
      - 不快気分・境界型（精神的不安定，時に薬物使用）
      - 一般暴力・反社会型（外でも犯罪行動，薬物使用）

Table 1.3  
Holtzworth-Munroe and Stuart (1994) による IPV 加害者の  
タイプと特徴 (Holtzworth-Munroe & Stuart, 1994, pp. 482,  
Table 2 を改変)

側面	家族限定型	不快気分・境界 型	一般暴力・反社 会型
重篤性	低い	中程度	中程度-高い
心理的/性的虐待	低い	中程度	中程度-高い
<b>暴力の一般性</b>			
家族以外への暴力	低い	低い-中程度	高い
犯罪行動, 法的関与 (legal involvement)	低い	低い-中程度	高い
<b>精神病質/パーソナリティ障害</b>			
パーソナリティ障害	なし/ 受動・依存的	統合失調症傾向 向/境界性傾向	反社会性/ サイコパシー
アルコール/ドラッグ乱用	低い-中程度	中程度	高い
うつ	低い-中程度	高い	低い
怒り	中程度	高い	中程度

Table 1.8  
IPV 加害リスクファクターとその具体例  
(Vagi et al., 2013 を参考に作成)

加害リスクファク ターカテゴリ	例
メンタルヘルス	うつ, 不安
攻撃的思考/認知	交際関係での暴力受容
若い時の暴力	ケンカ, 一般的な反社会行動
薬物使用	アルコール, マリファナ
危険を伴う性行動	8年生で性経験あり, セックスパ ートナーが多い
恋愛/友人関係の質が 悪い	敵意的なカップル関係, 反社会的 友人との関与
家族の質が悪い	両親の対立, 子どもの頃の身体的 虐待
個人の属性	子供の性別, 人種
暴力的なメディア	-

— 近年でも, 多くのリスクファクターが明らかになった (Vagi et al., 2013; Table 1.8)。

- ⇒ 一貫性は?
- ⇒ 進化心理学的視点から統合可能か?
- ⇒ IPV の進化的メカニズムは?

## 1.2. 生活史理論

### □ 進化心理学的アプローチ

- ヒトを含む生物は, 自身の遺伝子が残る可能性を最大化するような行動パターン, 心理メカニズムを形成する → 戦略 (strategy)。
  - ✓ より正確には, そのような戦略を持つ個体のみが結果的に生き残ってきた。
- → 進化心理学は, このような観点から行動パターンや心理メカニズムの構造を明らかにするための1つのアプローチである。
  - ✓ ※「戦略」とは, 目的を持った意図的な行動ではなく, 単純な行動パターンを意味する。行動生態学では, 戦略とは「ある特定の効果を達成するために取り得る行動のセット」を指す (長谷川・長谷川, 2000, p. 57)
- これまでのアプローチとは相補的な関係
  - ✓ これまでのアプローチを否定するものではない。

### □ 適応問題 (adaptive problem)

- 簡単に言えば, その個体の遺伝子を持つ子孫の数が維持され増えることが適応
  - ✓ 生き残り (生存), 多くの子どもを産む (繁殖)
- 適応を妨げる問題が適応問題
  - ✓ 様々だが, 性別によって異なる適応問題がある (性的葛藤)

### □ 男性: 父性不確実性

- 生まれてくる子どもが本当に自分の子どもなのかはわからない (Buss, 1996)。

- 自分の遺伝子を持たない子どもにエネルギーや資源を投資してしまう恐れがある。
- さらに、新たにパートナーを探索する時間もなくなる恐れがある。
- → パートナーである女性の浮気やその結果の妊娠を避けなければならない。

□ 女性：保護・リソース供給

- 自分から生まれてくるので母性不確実性はない。
- ただし、子どもを育てるために自分にのみ投資してくれる男性パートナーが必要。
- → パートナーである男性による自分以外への投資を避けなければならない。

⇒ 男女ともパートナーの浮気を防ぐ必要がある。ただし、女性はリソース供給が見込めることが本質であるのに対し、男性では浮気による妊娠そのものが問題となる。そのため、性的な浮気を防止する行動パターンや心理メカニズムは男性でより顕著。

□ パートナー関係維持行動 (mate retention behavior)

- パートナーを維持するための行動で、様々な方略がある (Buss & Shackelford, 1997; Buss et al., 2008)。
- ポジティブな方略：プレゼントを贈る、コミットメントのサインを示す, etc.
  - ✓ 公への所有のサイン (e.g., 良い関係であることを周りにアピール)
  - ✓ パートナーへの肯定的関わり (e.g., コミットメントのサイン)
- ネガティブな方略
  - ✓ パートナーの監視 (e.g., 行動の制限)
  - ✓ パートナーへの否定的関わり (e.g., パートナーが別れないように脅す)
  - ✓ ライバルへの否定的関わり (e.g., ライバルを攻撃する)

⇒ 現象として、IPV はこの行動の 1 つかもしれない (Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011) <sup>1</sup>。

⇒ パートナー関係維持行動としての暴力は最終手段で選択は稀 (Buss & Duntley, 2011)。

⇒ Question: IPV を選択することには個人差がある？

※パートナー関係維持行動だから良い悪いなどの価値を与えるものではない。

□ 個人差への進化心理学的アプローチ

- これまでの進化心理学的アプローチはヒトに共通する側面 ⇔ 個人差は誤差
- ⇔ 個人差も重要 (Buss, 2009)
  - ✓ 個人差には、1) 遺伝的基盤があり、2) 変動が比較的小さく、3) 適応行動が異なり、4) 個人が置かれる様々な環境状態における最適戦略としての役割を果たす。
  - ✓ e.g., パートナー選択の基準は、二足歩行 (ヒトに共通する側面) ではなく誠実性が高い (個人差特徴) ことが重要。

<sup>1</sup> ただし、男性でのみ言及される。

□ 生活史理論 (life history strategy)

- ー 生体エネルギーや資源を生存・繁殖のためにどのように割り当てるかという個人差に関する理論である (Figueredo et al., 2006)。これは環境のキューや遺伝的要因によって異なり、これらの戦略は生活史戦略 (life history strategy) といわれる (Table R1)。
- ー 本来種間の戦略の差異を説明する。

$$\frac{dN}{dt} = r \left( 1 - \frac{N}{K} \right) N$$

- ✓ dN/dt: 個体の増加率
- ✓ N: 個体数
- ✓ K: 環境収容力 (その環境における個体数の定員)
- ✓ r: 内的自然増加率 (その生物が実現する可能性のある最大増加率)
- ✓  $N < K \rightarrow r$  を高めることが繁殖に寄与  $\rightarrow$  早い生活史戦略 (r 戦略)
- ✓  $N = K \rightarrow r$  を高めてもしょうがない  $\Leftrightarrow$  その環境で競争に勝つ必要があるため少数の子どもに投資  $\rightarrow$  遅い生活史戦略 (K 戦略)
- ー  $N < K$  の環境とは, 将来の予測が立たない不安定な環境
  - ✓ 予測不能な気候変動
  - ✓ 捕食者 (外敵) の存在
  - ✓ 生存率が低い
- ー  $N = K$  の環境とは, 将来の予測が立つ安定的な環境
  - ✓ 安定的な気候
  - ✓ 捕食者 (外敵) がいない
  - ✓ 生存率が高い
- ー 生活史戦略は K-factor として得点化され, 1 次元で表現される。それぞれの両端は,
  - ✓ 遅い生活史戦略 (slow life history strategy: slow LHS; K 戦略)
  - ✓ 早い生活史戦略 (fast life history strategy: fast LHS; r 戦略)

Table R1

生活史戦略の特徴 (杉山・高橋, 2016 を改変)

早い生活史戦略	生活史戦略	遅い生活史戦略
小さい	個体サイズ	大きい
早い	性成熟の速度	遅い
多い	生涯パートナー数	少ない
多い	子どもの数	少ない
少ない	養育への投資	多い
不安定, 過酷	適合する環境	安定的, 安全

□ ヒトへの応用

- ー ヒトという種内においても生活史戦略の分散がある  $\rightarrow$  個人差
- ー 生活史戦略は様々な状況に関わる。
  - ✓ 友人関係, 親子関係, 恋愛関係, 計画性, 危険行動, etc.

□ 遅い生活史戦略 (K 戦略)

- ー 資源供給が安定的で, 様々な予測しやすい環境において有利な戦略
  - ✓ 長期的な利益を求める。
  - ✓ 他者との協力を重視する。
  - ✓ 繁殖のために, 少数の子どもをパートナーと協力し, 確実に成長させるための投資をする (parental effort 重視)。そのため, 長期的なパートナー関係の維持が重要。
  - ✓ ヒトは一般的には遅い生活史戦略をとる (Figueredo et al., 2006)。

- 早い生活史戦略 (r 戦略)
  - － 資源供給が不安定で、予測できない環境において有利な戦略
    - ✓ 短期的な利益を求める。
    - ✓ 自己中心的で他者を出し抜く。
    - ✓ 繁殖のために、短期的な多数の子どもの生殖を重視し、長期的な養育は重視しない (mating effort 重視)。そのため、短期的により多くのパートナーと性関係を持つことが重要。
    - ✓ ヒトの中でも個人差があり、Dark Triad (特にサイコパシー) は早い生活史戦略をとることが示唆されている (Jonason et al., 2010)
  
- 生活史戦略はパートナー関係維持として IPV を選択することの個人差を説明するか?
  - － 仮説: 早い生活史戦略が IPV を選択する。
    - ✓ 早い生活史戦略は一時的に強力なパートナー維持 ⇔ 遅い生活史戦略は長期的で協力を促進するパートナー維持。
  
- これまでの IPV リスクファクターと生活史戦略との関連は?
  - － Vagi et al. (2013) の示したリスクファクターは、早い生活史戦略特徴 (Figueredo et al., 2011)
  - － リスクファクター → IPV は、究極要因として生活史戦略が影響?
  - － ⇔ IPV リスクファクターを統合する至近要因は?

### 1.3. Dark Triad

- 社会的に望ましくないパーソナリティ群 (Furnham et al., 2013; Paulhus & Williams, 2002)
  - － マキャベリアニズム, ナルシシズム, サイコパシー
  - － Big Five とは異なりネガティブな側面を捉える (Muris et al., 2017; Veselka et al., 2011)
  - － 冷淡さ, 他者操作性, 自己中心性が中心的な特徴
    - ✓ ⇔ ただし, 各々の独自性も示される。
  
- マキャベリアニズム (Machiavellianism: Mach; Christie & Geis, 1970)
  - － シニカルな世界観 (cynical worldview), 戦術的対人操作性 (tactic manipulation), モラルの軽視
  - － 計画性
  
- ナルシシズム (Narcissism: Narc; Raskin & Hall, 1979)
  - － 尊大感 (grandiose), 特権意識 (entitlement), 優越性 (dominance), 自己顕示 (self-presentation)
  - － 対人関係重視
  
- サイコパシー (Psychopathy: Psych; Hart & Hare, 1989)
  - － 冷淡な感情 (callous affect), 対人操作 (interpersonal manipulation), 不安定ライフスタイル

(erratic lifestyle), 反社会行動 (antisocial behavior)

－ 衝動性

□ Dark Triad とパーソナリティとの関連

－ Big Five: 協調性との負の関連 (Furnham et al., 2014; Jakobwitz & Egan, 2006; O'Boyle et al., 2015; Paulhus & Williams, 2002)

✓ マキャベリ: 誠実性とも負の関連

✓ ナルシ: 外向性とも正の関連

✓ サイコ: 誠実性とも負の関連

－ HEXACO モデル: 正直-謙虚との負の関連 (Book et al., 2015; Lee & Ashton, 2005; Lee et al., 2013)

✓ マキャベリ: 協調性との負の関連

✓ ナルシ: 外向性とも正の関連

✓ サイコ: 誠実性, 情動性とも負の関連

－ 対人円環モデル (自己中心性などの Agency と他者協力などの Communion の 2 軸で対人関係を理解するモデル) : Agency と正の関連 (Rauthmann & Kolar, 2013)

✓ ⇔ マキャベリ: Agency, Communion と明確な関連が示されない

✓ ナルシ: Communion との明確な関連が示されない

✓ サイコ: Communion と負の関連が示される

□ Dark Triad と特性・行動パターンとの関連

－ 共感性・他者との協力を示さず, むしろ他者を操作することにより自己利益を追求する。道徳的価値を軽視し, 攻撃, 虚言, 危険行動をとり, また, 短期配偶戦略をとる。一方で, メンタルヘルスはよくなく, アタッチメントスタイルも不安定型である。

✓ ⇔ マキャベリ: 自己利益のために, 計画的・合理的に上記の行動をとる。そのため, 場合によっては上記の行動を示さないこともある。

✓ ⇔ ナルシ: 自分自身を高めるために上記の行動をとる。そのため, 場合によっては他者との協力や他者を省みることもある。また, メンタルヘルスはよい

✓ → サイコ: 衝動的に上記の行動をとる。

□ Dark Triad と IPV リスクファクターとの関連は?

－ Dark Triad の共通要素は, Vagi et al. (2013) で示された IPV リスクファクターを包含 (Furnham et al., 2013; Muris et al., 2017)

－ → 至近要因としての IPV リスクファクターを包含する変数として Dark Triad を仮定

□ Dark Triad と生活史戦略との関連は?

－ Dark Triad の共通要素は, 早い生活史戦略特徴 (Furnham et al., 2013; Jonason, Webster, et al., 2012; Jonason et al., 2013; McDonald et al., 2012)

- ✓ ⇔ 独自性も示される: ナルシシズムは遅い生活史特徴 (対人関係維持) を示したり, マキャベリアニズムは一貫しなかったりする (Jonason et al., 2013; McDonald et al., 2012)。
- ✓ ただし, 生活史戦略は上位概念との関連性を検証する際に特に重要 (Figueredo et al., 2005, 2014)。
- ✓ → 高次概念としての Dark Triad は早い生活史戦略特徴

#### 1.4. 日本における Dark Triad と 5 因子性格モデルとの関連

- Dark Triad は概念として新しい ⇔ 各側面は個別に研究されてきた。
- 査読論文としてパブリッシュされている研究は, 日本では尺度作成に関する 2 本のみ
  - Dark Triad Dirty Dozen 日本語版 (DTDD-J; 田村他, 2015)
  - Short Dark Triad 日本語版 (SD3-J; 下司・小塩, 2017)
- → 日本でも海外の Dark Triad の知見は再現されるか?
  - Big Five との関連性によって検証
- 方法
  - 参加者: 大学生 70 名 (女性 33 名, 男性 37 名;  $M_{age} = 19.1, SD = 1.02$ )
  - 測定: Dark Triad, 5 因子パーソナリティ特性, 自尊感情 (Appendix A-C)
    - ✓ Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J; 田村他, 2015): Dark Triad の各側面を 4 項目で測定
    - ✓ Ten Item Personality Inventory (TIPI-J; 小塩他, 2012): 5 因子パーソナリティを各 2 項目で測定
    - ✓ 2 項目自尊感情尺度 (箕浦・成田, 2013): 自尊感情を 2 項目で測定
  - 仮説: Dark Triad の各側面は協調性と負の関連を示す。
- 結果
  - 相関分析 (Table 1.10)
    - ✓ サイコパシーが協調性と負の関連を示した (仮説支持)
    - ✓ ⇔ 一方で, マキャベリアニズムは年齢, 性別, 自尊感情を統制すると関連せず, ナルシシズムはゼロ次相関においても関連しなかった (仮説不支持)

Table 1.10  
測定した尺度得点記述統計と相関係数 ( $N = 70$ )

	平均	(SD)	$\alpha$	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	年齢	性別
1. Dark Triad	3.91	(0.75)	.74	-	.86**	.72**	.54**	.17	.13	.25*	-.17	.01	.26*	.23†	.12
2. マキャベリアニズム	3.70	(1.12)	.75	.85**	-	.42**	.38**	.03	.15	.19	-.13	-.01	.23†	.12	.03
3. ナルシシズム	4.55	(1.19)	.79	.68**	.36**	-	-.04	.34**	.31**	.41**	.19	-.04	.44**	.30*	.16
4. サイコパシー	3.48	(0.84)	.31	.63**	.46**	.04	-	-.08	-.28*	-.17	-.54**	.09	-.23†	.03	.07
5. 開放性	4.03	(1.22)	.60	.04	-.08	.16	.00	-	.26*	.16	.16	-.04	.42**	.19	.20†
6. 誠実性	3.06	(1.22)	.55	.05	.06	.19	-.20	.14	-	.19	.32**	-.27*	.44**	.08	-.13
7. 外向性	4.15	(1.42)	.67	.15	.11	.28*	-.10	.00	.03	-	.01	-.08	.37**	.25*	.00
8. 協調性	4.99	(1.14)	.43	-.29*	-.23†	.05	-.52**	.00	.23†	-.12	-	-.28*	.36**	-.02	.15
9. 神経症傾向	4.34	(1.37)	.58	.09	.05	.09	.07	.08	-.25*	-.01	-.22†	-	-.20	-.12	-.20†
10. 自尊感情	4.02	(1.23)	.80	.21†	.21†	.39**	-.25*	.39**	.45**	.33**	.37**	-.17	-	.26*	.09

† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ .

Note. 変数のとりうる値の範囲はすべて 1 から 7 である。上三角行列はゼロ次相関, 下三角行列は自尊感情, 年齢, 性別 (自尊感情の行は年齢, 性別) を統制した偏相関係数である。

- 回帰分析 (Dark Triad の当該変数以外を統制; Table 1.11)
  - ✓ サイコパシーが協調性と負の関連を示した (仮説支持)
  - ✓ ⇔ 一方で, マキャベリアニズム, ナルシシズムは関連しなかった (仮説不支持)

Table 1.11  
D3の各側面を説明変数, 5因子性格モデルの各側面を目的変数とした重回帰分析の標準偏回帰係数 (N = 70)

	開放性	誠実性	外向性	協調性	神経症傾向	自尊感情 <sup>a</sup>
マキャベリアニズム	-.12	.19	.12	.00	-.04	.20
ナルシシズム	.39 **	.22 †	.36 **	.17	-.02	.34 **
サイコパシー	-.01	-.35 **	-.20	-.54 **	.11	-.29 *
年齢, 性別, 自尊感情 を統制した場合						
マキャベリアニズム	-.18	.11	.08	-.03	-.02	.20
ナルシシズム	.23 †	.15	.27 †	.09	.11	.29 *
サイコパシー	.08	-.24 †	-.14	-.48 **	.08	-.30 *

† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ .

<sup>a</sup> 下段の係数は, 年齢, 性別を統制した場合の標準偏回帰係数を示す。

- 構造方程式モデリング (Dark Triad の共通要素を抽出; Figure 1.8)
  - ✓ Dark Triad 因子と協調性に加え, 誠実性との負の関連が示された (仮説支持)
  - ✓ ⇔ 一方で, Dark Triad 因子には主にサイコパシーのみが寄与した (仮説不支持)

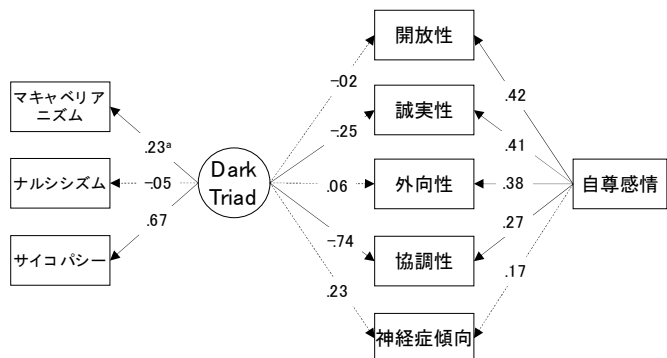


Figure 1.8. 構造方程式モデリングの結果と標準化係数。実線は 5% 水準で有意なパスを示す。「a」は係数を 1 に固定した。

## □ 考察

- サイコパシーが主に協調性と関連した。
- ⇔ 一方で, マキャベリアニズム, ナルシシズムは協調性と関連が示されなかった。
  - ✓ 日本では異なる? (本質的問題)
  - ✓ 尺度の精度の問題?
  - ✓ サンプルサイズ?
- 再現されたとはいいがたいが, 上記の本質的ではない問題による可能性もある。
- → より精度の高い尺度と大きなサンプルサイズによって検証する (第 3 章)。

## 1.5. 第 1 章の総合考察

- IPV の現状のレビューを行ない, 新たな視点として進化心理学的アプローチ, 特に個人差の進化的基盤である生活史戦略への着目の必要性と, 至近要因として IPV リスクファクターを包括する Dark Triad への着目の必要性を示した。
- 最終的な目的は, IPV の発生に, 生活史戦略と Dark Triad が影響することを示す。



## 2. 測定尺度

そもそも、日本では IPV を測定する尺度が一貫しておらず、いずれも妥当性の検証がなされていない。また、生活史戦略が 1 次元かどうかの指摘がある。そして、生活史戦略を測定する日本語版尺度である Mini-K-J は、一般成人 (30-50 代) を対象とし、遅い生活史戦略特徴によって妥当性の検証がなされており、大学生への応用可能性や、早い生活史戦略特徴を捉えられるかどうかの検証がなされていない。

### 2.1. IPV の測定尺度

#### □ 大きな 3 つの問題

- 尺度が一貫していない
- いずれも妥当性の検証がなされていない
- IPV 形態を捉えきれていない
  - ✓ 主に、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力 (+ 経済的暴力) のみ
  - ✓ 精神的暴力には、言語的暴力、支配・監視なども含まれてしまう

#### □ 3 つの調査を通して IPV 尺度を作成し、妥当性を検証する。

- 一般人を対象とし、人口動態データ、行動特徴との関連を検証する。
- 大学生を対象とし、パーソナリティとの関連を検証する。
- 大学生を対象とし、パートナー関係維持行動との関連を検証する。

#### □ 調査 1: 目的

- 尺度を構成する
  - ✓ IPV 形態の多様性を考慮した越智他 (2014, 2015) を基に、IPV の 7 形態を想定
- 人口動態データとの関連
  - ✓ 性別: IPV は双方向が一般的 (Straus, 2008) → 仮説: 性差なし
  - ✓ 年齢: IPV は若い年代でも発生 (Giordano et al., 2010) → 仮説: 年齢差なし
  - ✓ 学歴: 学歴が低いほど IPV リスクが高い (Halpern et al., 2001) → 仮説: 負の関連
- 行動特徴との関連
  - ✓ 喫煙: IPV リスクファクターの 1 つ (Rothman et al., 2010) → 仮説: 正の関連
  - ✓ 飲酒: IPV リスクファクターの 1 つ (Temple et al., 2013) → 仮説: 正の関連

#### □ 調査 1: 方法

- 参加者: 交際中の 18-39 歳の一般人 598 名 (女性 300 名, 男性 298 名;  $M_{age} = 28.8, SD = 5.79$ )
- 測定: IPV 項目と、自身とパートナーの年齢、性別、学歴、喫煙の程度、飲酒の程度
  - ✓ IPV 項目: 越智他 (2014, 2015) を参考に 120 項目、5 件法 (まったくない ~ よくある)
  - ✓ 喫煙・飲酒の程度: 各々 7 件法 (まったく吸わない (飲まない) ~ 非常に多い)

#### □ 調査 1: 結果

- 7 因子各 3 項目の尺度を作成 (Appendix D, E)

- ✓ 直接的暴力，間接的暴力，支配・監視，言語的暴力，性的暴力，経済的暴力，ストーキングの7因子に加え，高次因子として単一の一般 IPV
- ✓ 適合度は良好 (Appendix F)
- 人口動態データとの関連 (Table 2.3, 2.4)
  - ✓ 性差: 間接的暴力，性的暴力，ストーキング，一般 IPV で男性 > 女性，ただし，性的暴力のみ効果量大 ( $d = 0.53$ ) (仮説一部支持)
  - ✓ 年齢差: 関連なし (仮説支持)
  - ✓ 学歴: 関連なし (仮説不支持)：日本では学歴的な格差が小さい?
- 行動特徴
  - ✓ 喫煙: すべての IPV 形態と正の関連 ( $r_s = .10-.20$ ; 仮説支持)
  - ✓ 飲酒: 言語的暴力，経済的暴力以外の IPV 形態と正の関連 ( $r_s = .09-.13$ )

#### □ 調査 2: 目的

- 大学生を対象
- IPV 尺度の確証的因子分析と性差の検証
  - ✓ 7 因子の確証的因子分析と，7+1 因子の高次因子分析
- パーソナリティとの関連を検証
  - ✓ 境界性パーソナリティ: IPV リスクファクターの 1 つ (Mauricio & Lopez, 2009; Weinstein et al., 2012) → 仮説: 正の関連
  - ✓ 反社会性パーソナリティ: IPV リスクファクターの 1 つ (Holtzworth-Munroe & Stuart, 1994; Fals-Stewart et al., 2005) → 仮説: 正の関連

#### □ 調査 2: 方法

- 参加者: 交際経験のある大学生 344 名 (女性 182 名，男性 162 名;  $M_{age} = 19.0$ ,  $SD = 1.25$ )
- 測定: IPV 尺度 (Appendix D)，PDQ-R (Appendix G)
  - ✓ IPV 尺度: 調査 1 で作成した 21 項目×2，5 件法 (まったくない～よくある)
  - ✓ PDQ-R (切池・松永，1995)：境界性パーソナリティ (11 項目)，反社会性パーソナリティ (8 項目) を測定する。はい・いいえで回答 (犯罪項目 4 つを除外)

#### □ 調査 2: 結果

- 確証的因子分析で適合度良好 (Appendix D-F)
- 性差 (Table 2.3)：性的暴力 (女性 < 男性)，経済的暴力 (女性 > 男性)，ストーキング (女性 < 男性)，ただし，性的暴力のみ効果量大 ( $d = 0.66$ ) (仮説一部支持)
- パーソナリティとの関連 (Table 2.4)
  - ✓ 境界性パーソナリティ: 性的暴力以外と正の関連 ( $r_s = .16-.27$ ; 概ね仮説支持)
  - ✓ 反社会性パーソナリティ: 身体的暴力，支配・監視以外と正の関連 ( $r_s = .19-.25$ ; 概ね仮説支持)

□ 調査 3: 目的

- － 大学生を対象
- － IPV 尺度の確証的因子分析と性差の検証
  - ✓ 7 因子の確証的因子分析と, 7+1 因子の高次因子分析
- － パートナー関係維持行動との関連の検証
  - ✓ IPV はパートナー関係維持行動の 1 つ (Buss et al., 2008; Buss & Shackelford, 1997)
  - ✓ パートナー関係維持行動の 5 領域は各々相関
  - ✓ → 仮説: パートナー関係維持行動と正の関連

□ 調査 3: 方法

- － 参加者: 交際経験のある大学生 130 名 (女性 80 名, 男性 50 名;  $M_{age} = 19.7, SD = 1.49$ )
- － 測定: IPV 尺度 (Appendix D), パートナー関係維持行動尺度日本語版 (Appendix H, I)
  - ✓ IPV 尺度: 調査 1 で作成した 21 項目×2, 5 件法 (まったくない〜よくある)
  - ✓ パートナー関係維持行動尺度日本語版 (寺島, 2010) : パートナー関係維持行動の 5 領域の測定, 38 項目, 4 件法 (一度もおこなったことはない〜しばしばおこなったことがある)

□ 調査 3: 結果

- － 確証的因子分析で適合度はやや悪い (Appendix D-F)
- － 性差 (Table 2.3) : 経済的暴力 (女性 > 男性) で性差, 効果量大 ( $d = 0.50$ ) (仮説一部支持)
- － パートナー関係維持行動との関連 (Table 2.4)
  - ✓ ほぼすべてで関連 ( $r_s = .18-.64$ ; 概ね仮説支持)
  - ✓ 身体的暴力と, パートナーへの否定的関わり, パートナーへの肯定的関わり, 公への所有のサインは n.s.
  - ✓ 間接的暴力と公への所有のサインは n.s.

Table 2.3  
各調査における IPV の得点と性差

	調査 1 (N = 598)					調査 2 (N = 344)					調査 3 (N = 130)										
	男性	(SD)	女性	(SD)	t	d	男性	(SD)	女性	(SD)	t	d	男性	(SD)	女性	(SD)	t	d			
<b>被害経験</b>																					
身体的暴力	1.48	(0.89)	1.24	(0.61)	3.83	***	0.31	1.32	(0.56)	1.12	(0.35)	3.95	***	0.44	1.35	(0.80)	1.15	(0.54)	1.53	0.30	
間接的暴力	1.59	(0.93)	1.36	(0.76)	3.27	**	0.27	1.38	(0.56)	1.22	(0.49)	2.89	**	0.31	1.24	(0.42)	1.21	(0.60)	0.31	0.05	
支配・監視	1.80	(0.90)	1.61	(0.86)	2.59	**	0.21	2.17	(0.91)	2.33	(0.99)	-1.55	-0.17	2.11	(1.12)	1.97	(0.97)	0.71	0.13		
言語的暴力	1.62	(0.84)	1.59	(0.86)	0.40	0.03	1.67	(0.74)	1.76	(0.72)	-1.06	-0.11	1.39	(0.55)	1.67	(0.77)	-2.41	*	-0.40		
性的暴力	1.43	(0.77)	1.48	(0.82)	-0.81	-0.07	1.42	(0.63)	1.53	(0.70)	-1.52	-0.16	1.17	(0.33)	1.41	(0.63)	-2.83	**	-0.44		
経済的暴力	1.47	(0.77)	1.33	(0.67)	2.36	*	0.19	1.61	(0.75)	1.36	(0.54)	3.49	**	0.38	1.33	(0.59)	1.27	(0.52)	0.65	0.12	
ストーキング	1.47	(0.79)	1.24	(0.58)	4.05	***	0.33	1.58	(0.76)	1.57	(0.74)	0.13	0.01	1.44	(0.78)	1.44	(0.72)	-0.01	0.00		
一般 IPV	1.55	(0.70)	1.41	(0.55)	2.76	**	0.23	1.59	(0.53)	1.55	(0.45)	0.73	0.08	1.43	(0.46)	1.45	(0.50)	-0.16	-0.03		
<b>加害経験</b>																					
身体的暴力	1.29	(0.69)	1.23	(0.52)	1.33	0.11	1.16	(0.43)	1.10	(0.31)	1.47	0.16	1.07	(0.20)	1.13	(0.37)	-1.24	-0.20			
間接的暴力	1.38	(0.72)	1.28	(0.52)	2.04	*	0.17	1.23	(0.52)	1.19	(0.44)	0.68	0.07	1.14	(0.34)	1.20	(0.45)	-0.87	-0.15		
支配・監視	1.48	(0.73)	1.37	(0.71)	1.80	†	0.15	1.81	(0.79)	1.81	(0.83)	0.04	0.004	1.94	(0.98)	1.73	(0.90)	1.21	0.22		
言語的暴力	1.46	(0.73)	1.35	(0.59)	1.94	†	0.16	1.56	(0.69)	1.52	(0.62)	0.47	0.05	1.46	(0.77)	1.52	(0.66)	-0.43	-0.08		
性的暴力	1.40	(0.72)	1.09	(0.37)	6.51	***	0.53	1.43	(0.75)	1.07	(0.23)	5.87	***	0.66	1.25	(0.48)	1.11	(0.37)	1.67	†	0.32
経済的暴力	1.33	(0.69)	1.39	(0.65)	-1.05	-0.09	1.28	(0.51)	1.60	(0.78)	-4.50	***	-0.47	1.24	(0.45)	1.57	(0.76)	-3.12	**	-0.50	
ストーキング	1.29	(0.62)	1.17	(0.49)	2.48	*	0.20	1.37	(0.57)	1.23	(0.43)	2.67	**	0.29	1.26	(0.43)	1.40	(0.70)	-1.37	-0.22	
一般 IPV	1.38	(0.61)	1.27	(0.41)	2.51	*	0.21	1.41	(0.43)	1.36	(0.37)	1.04	0.11	1.34	(0.38)	1.38	(0.46)	-0.58	-0.10		

† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$ .

Note. 得点がとりうる値の範囲は 1 から 5 である。

□ 調査 1-3 を通じた考察

- － 多様な IPV 形態を想定する尺度を作成し，単一の高次因子として一般 IPV 因子を仮定できた。
- ✓ 7 因子 + 1 高次因子
- － 性差は一部を除いて大きな効果は示されなかった。
- ✓ 性的暴力は男性に特有，経済的暴力は女性に特有，という点は，進化心理学的観点から整合的である。

Table 2.4  
各調査における IPV とリスクファクターとの相関係数。

	調査 1 (N = 598) <sup>a</sup>				調査 2 (N = 344)		調査 3 (N = 130)				
	年齢	学歴 <sup>b</sup>	飲酒 <sup>c</sup>	喫煙 <sup>c</sup>	境界性 パーソナリティ	反社会性 パーソナリティ	パートナーの 監視	パートナーへの 否定的関わり	パートナーへの 肯定的関わり	公への 所有のサイン	ライバルへの 否定的関わり
<b>被害経験</b>											
身体的暴力	-.12 **	-.04	.04	.11 **	.16 **	.02	.23 **	.40 **	.35 **	.20 *	.22 *
間接的暴力	-.06	-.05	.06	.09 *	.15 **	.16 **	.30 **	.42 **	.27 **	.15	.31 **
支配・監視	-.03	-.11 **	.05	.09	.14 **	.14 **	.46 **	.40 **	.44 **	.44 **	.44 **
言語的暴力	.00	-.08 *	.11 **	.11 *	.12 *	.09	.32 **	.41 **	.37 **	.37 **	.36 **
性的暴力	-.04	-.07	.04	.11 **	.23 **	.28 **	.22 *	.35 **	.32 **	.23 **	.18 *
経済的暴力	-.07	-.07	.06	.13 **	.14 **	.20 **	.23 **	.40 **	.32 **	.24 **	.34 **
ストーキング	-.10 *	-.03	.00	.07	.18 **	.25 **	.15	.42 **	.24 **	.23 **	.17 *
一般 IPV	-.07	-.11 *	.07	.13 **	.22 **	.23 **	.40 **	.56 **	.47 **	.40 **	.42 **
<b>加害経験</b>											
身体的暴力	-.05	-.06	.09 *	.14 **	.16 **	.10	.26 **	.16	.03	.07	.18 *
間接的暴力	.02	-.07	.12 **	.20 **	.24 **	.19 **	.35 **	.30 **	.21 *	.12	.35 **
支配・監視	-.03	-.07	.11 *	.12 **	.19 **	.09	.54 **	.47 **	.60 **	.54 **	.64 **
言語的暴力	.02	-.06	.06	.10 *	.18 **	.21 **	.25 **	.50 **	.40 **	.39 **	.42 **
性的暴力	-.03	-.02	.13 **	.15 **	.08	.24 **	.26 **	.37 **	.34 **	.21 *	.30 **
経済的暴力	.01	-.01	.06	.12 **	.24 **	.19 **	.44 **	.43 **	.36 **	.37 **	.38 **
ストーキング	-.03	-.05	.10 *	.15 **	.20 **	.23 **	.35 **	.42 **	.30 **	.32 **	.40 **
一般 IPV	-.02	-.05	.11 **	.17 **	.27 **	.25 **	.51 **	.55 **	.50 **	.46 **	.57 **

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ .

<sup>a</sup>被害経験の相関係数は，参加者の被害経験とパートナーのリスクファクターとの関連，加害経験の相関係数は参加者の加害経験と参加者のリスクファクターとの関連を示す。

<sup>b</sup>スピアマンの順位相関係数を用いた。

- － IPV リスクファクターとの関連性が示された。
  - ✓ ※ただし，係数が小さいものもあるため注意
  - ✓ ※多くは IPV 得点は低いため，強い関連が示されなかった可能性あり。海外の先行研究でも係数は小さい (Straus & Douglas, 2004; N = 1157,  $r_s \leq .22$ )
- － 3 つの限界点
  - ✓ 分布の歪み (ただし，IPV は正規分布しないと考えられる) による，最尤推定法による推定値の正確性の問題 (最尤法は分布の歪みに頑健だといわれているが... Benson & Fleishman, 1994)
  - ✓ 相関係数が低いものもあった。
  - ✓ 臨床群との比較は未検討
- － これらの限界点はあるものの，今後の基礎的研究の発展のために有効な尺度だろう。

## 2.2. 生活史戦略の測定尺度

- 生活史戦略は、20 項目の Mini-K で測定することができる (Figueredo et al., 2006)。測定された得点は K-factor と呼ばれ、高いほど遅い生活史戦略、低いほど早い生活史戦略であることを反映する。
- 一方で、問題点が指摘される。
  - － 生活史戦略は 1 次元なのか? (Richardson et al., 2017)
    - ✓ 高次因子で 1 次元性を仮定できる。
  - － 日本語版である Mini-K-J の妥当性は、30-50 代が対象で、遅い生活史戦略特徴との関連によってなされている。
    - ✓ 大学生では?
    - ✓ 早い生活史戦略特徴では?
- 大学生を対象に、高次因子による生活史戦略の 1 次元性が仮定できるかどうか、Mini-K-J は早い生活史戦略を捉えられるかどうかを検証する。

### □ 方法

- － 参加者: 大学生 455 名 (女性 247 名, 男性 208 名;  $M_{age} = 19.0, SD = 1.19$ )
- － 測定: Mini-K-J (Appendix J), SD3-J (Appendix L), PDQ-R (Appendix G), 喫煙の程度, 飲酒の程度
  - ✓ Mini-K-J (Kawamoto, 2015) : 生活史戦略 (K-factor) を測定する 20 項目, 7 件法 (まったくあてはまらない～よくあてはまる)
    - ※項目 9, 20 は日本の大学生にそぐわないため除外 (Appendix J) → 18 項目
  - ✓ Short Dark Triad 日本語版 (SD3-J; 下司・小塩, 2017) : Dark Triad の各側面を 9 項目で測定する, 7 件法 (まったくあてはまらない～とてもあてはまる)
  - ✓ PDQ-R (切池・松永, 1995) : 境界性パーソナリティ (11 項目), 反社会性パーソナリティ (8 項目) を測定する。はい・いいえで回答
  - ✓ 喫煙の程度, 飲酒の程度: それぞれ 7 件法 (まったく吸わない (飲まない) ~非常に多い)
- － 分析 (因子構造) : 探索的 SEM と高次因子分析
  - ✓ 先行研究 (Richardson et al., 2017) に従い, 1 因子から 6 因子まで探索的 SEM
  - ✓ K-factor を単一の高次因子として仮定
- － 分析 (妥当性検証) : 各変数との相関分析
 

	本研究	先行研究 (Richardson et al., 2017)
抽出法	完全情報最尤法	ロバスト重み付け最小二乗法
$\chi^2$	×	n.s.
CFI	> .95	> .95
TLI	> .95	> .95
RMSEA	< .05	< .05
SRMR	< .05	×
負荷量基準	> .30	> .30
初期除外項目	9, 20	×
最終除外項目	6, 9, 10, 20	1, 6, 9, 10

  - ✓ 性差: 男性は女性に比べて早い生活史戦略を示す (Figueredo et al., 2006) → 仮説: 女性 > 男性
  - ✓ マキャベリアニズム: 生活史戦略と一貫しない関連 (Jonason et al., 2010) → 仮説立てず
  - ✓ ナルシシズム: 遅い生活史戦略を示す可能性 (McDonald et al., 2012) → 仮説立てず
  - ✓ サイコパシー: 早い生活史戦略を示す (Jonason et al., 2010) → 負の関連
  - ✓ 境界性パーソナリティ: 早い生活史戦略を示す (Brüne, 2016) → 負の関連

- ✓ 反社会性パーソナリティ: 早い生活史戦略を示す (Figueredo et al., 2014) → 負の関連
- ✓ 交際人数: 早い生活史戦略はパートナー数が多い (Figueredo et al., 2014) → 正の関連
- ✓ 喫煙: 早い生活史戦略特徴 (Figueredo et al., 2014) → 負の関連
- ✓ 飲酒: 早い生活史戦略特徴 (Figueredo et al., 2014) → 負の関連

□ 結果: 因子構造

－ 探索的 SEM で、5 因子モデルは収束せず、また、6 因子が基準を満たした (Table 2.5)

- ✓ ⇔ 6 因子モデルにいろいろ問題あり (Appendix J)

Table 2.5  
各因子数での ESEM の適合度 (N = 455)

因子数	$\chi^2$	df	p	CFI	TLI	RMSEA	SRMR	AIC	BIC	AdjBIC
1	1262.52	135	<.001	.528	.465	.135	.095	29433.99	29656.49	29485.11
2	675.22	118	<.001	.767	.698	.102	.072	28880.69	29173.23	28947.90
3	519.68	102	<.001	.825	.738	.095	.059	28757.15	29115.61	28839.50
4	320.81	87	<.001	.902	.828	.077	.047	28588.28	29008.55	28684.83
5	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
6	102.35	60	<.001	.982	.955	.039	.022	28423.82	28955.34	28545.94

- 第3因子は項目5にのみ負荷

- 項目8の因子負荷量は1を超える

- 先行研究の6因子目(コミュニティへの関与因子)が抽出されない: ※コミュニティへの関与因子は項目19, 20からなるが (Richardson et al., 2017), 本研究は項目20を除外したため?

- ✓ ⇔ 4因子モデルは? (Appendix J)

- 項目11, 12への負荷が基準を下回る

- 項目5が第1因子に含まれる: 第1因子は「先読み・計画性・統制性」因子なので、理論的に整合

- ✓ → 結局、5因子モデルが適切では? (Appendix K, M)

- 良好な適合度 ( $\chi^2(94) = 172.52^{***}$ , CFI = .964, TLI = .954, RMSEA = .043, SRMR = .042)

- 項目の各因子への負荷も理論的に整合

－ 高次因子分析で単一の K-factor を仮定 (Appendix K)

- ✓ 良好な適合度 ( $\chi^2(99) = 176.24^{***}$ , CFI = .965, TLI = .957, RMSEA = .041, SRMR = .043)

－ 高次概念として、1次元性を仮定できる。

□ 結果: 妥当性検証

－ 性差と相関分析 (Table 2.9)

- ✓ K-factor でのみ女性 > 男性 ⇔ 各下位因子では有意ではない (概ね仮説支持)

- ✓ パーソナリティはサイコパシー, 境界性パーソナリティ, 反社会性パーソナリティが K-factor と多くの下位因子と負の関連 (概ね仮説支持)

- ✓ 行動特徴は、喫煙は負の関連を示したが (概ね仮説支持), 飲酒と交際人数は K-factor との関連が示されなかった。

- パーソナリティが年齢に制限されない内的な変数である一方で (McCrae et al., 2000), 行動特徴は年齢に制限されるから?

Table 2.9  
本研究で測定した指標の記述統計量, 性差, 生活史戦略との相関係数 (N = 455)

	女性 (N=247)		男性 (N=208)		T	d	Correlations								
	M	(SD)	M	(SD)			1	2	3	4	5	6			
1. K-factor	5.04	(0.65)	4.69	(0.93)	4.58 **	0.44									
2. 先読み・計画性・統制性	4.45	(0.87)	4.51	(1.04)	-0.67	-0.06	.66 **								
3. 両親との関係の質	5.74	(1.18)	5.22	(1.64)	3.81	0.37	.61 **	.24 **							
4. パートナー間の絆	5.80	(1.18)	4.95	(1.55)	6.49	0.62	.45 **	.14 **	.19 **						
5. 親族との関わり	4.41	(1.64)	3.96	(1.56)	2.98	0.28	.67 **	.22 **	.33 **	.12 *					
6. 友人との関わり	5.51	(1.02)	5.04	(1.27)	4.23	0.40	.76 **	.36 **	.39 **	.27 **	.33 **				
Dark Triad	3.70	(0.65)	3.84	(0.62)	-2.30 *	-0.22	.00	.20 **	-.01	-.25 **	.01	-.05			
マキャベリアニズム	4.70	(0.85)	4.79	(0.92)	-1.04	-0.10	.01	.20 **	.06	-.05	-.10 *	-.07			
ナルシズム	3.13	(0.89)	3.36	(0.95)	-2.62 **	-0.25	.14 **	.23 **	.05	-.14 **	.07	.13 **			
サイコパシー	3.24	(0.80)	3.35	(0.86)	-1.44	-0.14	-.16 **	.01	-.14 **	-.36 **	.05	-.18 **			
境界性パーソナリティ <sup>a</sup>	0.40	(0.20)	0.37	(0.20)	1.19	0.11	-.27 **	-.14 **	-.21 **	-.23 **	-.10 *	-.25 **			
反社会性パーソナリティ <sup>a</sup>	0.25	(0.15)	0.27	(0.18)	-1.44	-0.14	-.38 **	-.20 **	-.26 **	-.30 **	-.22 **	-.30 **			
これまでの交際人数 <sup>b</sup>	1.99	(2.00)	2.33	(2.39)	-1.60	-0.15	.06	.10 *	.02	-.15 **	.01	.12 *			
喫煙の程度	1.13	(0.69)	1.32	(1.02)	-2.27 *	-0.22	-.14 **	-.07	-.12 *	-.21 **	.00	-.12 *			
飲酒の程度	2.44	(1.58)	2.74	(1.73)	-1.94 †	-0.19	-.03	.06	-.07	-.13 **	-.06	.04			

† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

<sup>a</sup> 得点がとりうる値の範囲は 0 から 1 である。

<sup>b</sup> 得点がとりうる値の範囲は 0 以上である。

#### □ 考察

— 生活史戦略の 1 次元性

✓ 高次概念で単一の K-factor を仮定

— Mini-K-J の妥当性

✓ 大学生の早い生活史戦略を反映するパーソナリティは捉えられる

✓ ⇔ 行動指標は十分に捉えられないかもしれない。

● → 行動特徴と K-factor の関連性を検証する場合, 注意を要するかもしれない。

● ※IPV は行動指標: 大学生以前にも示されるため, 大学生においても一定の分散が示されると考えられる → 実際に IPV と K-factor が関連するなら Mini-K-J に測定される K-factor と IPV の関連は示されるだろう。

### 3. モデル検証

⇒ IPV 発生に, 生活史戦略 (究極要因) と Dark Triad (至近要因) が影響することを示す。

#### 3.1. モデル検証 1: 至近・究極要因からの IPV メカニズムへのアプローチ

□ 仮説: 至近要因の IPV への効果は, K-factor に規定される。

— IPV はパートナー関係維持行動の 1 つ (Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011)

— 様々なパートナー関係維持行動から IPV を選択することに個人差があるだろう。

— 即時的な利益・短期的配偶志向である早い生活史戦略ほど IPV を選択するだろう。

— 生活史戦略はパーソナリティとして Dark Triad に反映されるだろう。

— ⇔ ※IPV は男女で双方向的だが (Straus, 2008), パートナー関係維持行動としての IPV の理論的説明は, 主に男性の IPV (Archer, 2013; Buss & Duntley, 2011) → 女性は探索的に。

□ 方法

— 参加者: 交際経験のある大学生 344 名 (女性 182 名, 男性 162 名;  $M_{age} = 19.0$ ,  $SD = 1.25$ )

- 測定: IPV 尺度, Mini-K-J, SD3-J
- ✓ IPV 尺度: 調査 1 で作成した 21 項目, 5 件法 (まったくない~よくある)
- ✓ Mini-K-J (Kawamoto, 2015): 生活史戦略 (K-factor) を測定する 20 項目, 7 件法 (まったくあてはまらない~よくあてはまる)
- ※ただし, 項目 9, 20 は日本の大学生にそぐわないため除外 → 18 項目
- ✓ Short Dark Triad 日本語版 (SD3-J; 下司・小塩, 2017): Dark Triad の各側面を 9 項目で測定する, 7 件法 (まったくあてはまらない~とてもあてはまる)

□ 結果: 記述統計と性差 (Table 3.1)

- IPV: 性的暴力 (女性 < 男性), 経済的暴力 (女性 > 男性), ストーカー (女性 > 男性) に性差
- ✓ IPV 尺度作成調査と先行研究を支持 (Buss & Schmitt, 1993)
- 生活史戦略 (K-factor): 女性 > 男性
- ✓ 先行研究を支持 (Figueredo et al., 2006; Kawamoto, 2015)
- Dark Triad: Dark Triad (女性 < 男性), ナルシズム (女性 < 男性) で性差
- ✓ 先行研究を支持 (Furnham et al., 2013)
- ✓ ⇔ マキャベリアニズム, サイコパシーに性差なし: 今後の検証の余地あり (Carter et al., 2014)

Table 3.1  
モデル検証 1 で測定した指標の記述統計量と性差 (N=344)

	女性 (N=182)		男性 (N=162)		r <sup>a</sup>	g
	<i>α</i>	M (SD)	M (SD)			
マキャベリアニズム	.74	4.72 (-0.85)	4.75	-0.91	-0.32	-0.03
ナルシズム	.73	3.24 (-0.9)	3.48	-0.88	-2.54 *	-0.27
サイコパシー	.63	3.27 (-0.82)	3.41	-0.89	-1.57	-0.17
Dark Triad	.80	3.74 (-0.66)	3.88	-0.62	-2.02 *	-0.22
K-factor	.81	5.03 (-0.61)	4.73	-0.96	3.49 **	0.39
身体的暴力	.68	1.10 (-0.31)	1.16	-0.43	-1.47	-0.16
間接的暴力	.70	1.19 (-0.44)	1.23	-0.52	-0.68	-0.07
支配・監視	.59	1.81 (-0.83)	1.81	-0.79	-0.04	-0.004
言語的暴力	.61	1.52 (-0.62)	1.56	-0.69	-0.47	-0.05
性的暴力	.78	1.07 (-0.23)	1.43	-0.75	-5.87 ***	-0.66
経済的暴力	.67	1.60 (-0.78)	1.28	-0.51	4.5 ***	0.47
ストーカー	.63	1.23 (-0.43)	1.37	-0.57	-2.67 **	-0.29
一般 IPV	.85	1.36 (-0.37)	1.41	-0.43	-1.04	-0.11

<sup>†</sup>p < .01, \*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001

Note. IPV の各形態および一般 IPV のとりうる値の範囲は 1 から 5 である。Dark Triad の各側面および K-factor のとりうる値の範囲は 1 から 7 である。

□ 結果: 相関分析 (Table 3.2)

- 男性: 主にサイコパシーが多くの IPV と関連し, サイコパシーのみ K-factor と負の関連を示した ⇔ マキャベリアニズム, ナルシズムは K-factor と正の関連を示す。
- ✓ K-factor は多くの IPV と負の関連を示した。
- 女性: Dark Triad の各側面は多くの IPV と関連したが, K-factor との関連は示さず。
- ✓ K-factor は経済的暴力を除き IPV との関連は示されなかった。

Table 3.2  
モデル検証 1 で測定した指標同士の年齢を統制した偏相関係数 (N=344)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1. マキャベリアニズム	-	.32**	.43**	.75**	-.10	.10	.17*	.23**	.16*	.05	.27**	.17*	.27**
2. ナルシズム	.03	-	.44**	.77**	.04	.18*	.23**	.20**	.16*	.06	.25**	.13†	.27**
3. サイコパシー	.20*	.47**	-	.79**	-.24**	.21**	.25**	.23**	.19*	.16*	.28**	.26**	.33**
4. Dark Triad	.59**	.71**	.80**	-	-.12	.21**	.28**	.28**	.22**	.12	.34**	.24**	.37**
5. K-factor	.21**	.19*	-.20*	.10	-	.01	-.07	.11	-.04	-.12	-.20**	-.13†	-.08
6. 身体的暴力	-.03	.03	.19*	.09	-.22**	-	.62**	.24**	.48**	.25**	.29**	.31**	.58**
7. 間接的暴力	.02	.10	.33**	.22**	-.20*	.63**	-	.46**	.70**	.28**	.48**	.44**	.80**
8. 支配・監視	.07	.06	.14†	.13	-.05	.32**	.38**	-	.38**	.23**	.37**	.43**	.72**
9. 言語的暴力	.06	.18*	.29**	.25**	-.10	.45**	.59**	.30**	-	.30**	.50**	.30**	.76**
10. 性的暴力	.18*	.16*	.37**	.34**	-.18*	.31**	.34**	.34**	.44**	-	.33**	.38**	.47**
11. 経済的暴力	-.01	.14†	.20*	.16*	-.21**	.37**	.49**	.26**	.41**	.46**	-	.49**	.77**
12. ストーカー	-.03	.12	.26**	.16*	-.25**	.55**	.48**	.61**	.36**	.50**	.43**	-	.67**
13. 一般 IPV	.07	.16*	.36**	.28**	-.22**	.67**	.76**	.69**	.71**	.71**	.66**	.79**	-

<sup>†</sup>p < .01, \*p < .05, \*\*p < .01

Note. 上段が女性 (N=182), 下段が男性 (N=162)。また, 年齢は統制した。



□ 結果: 回帰分析 (Table 3.3)

- 男性: 主にサイコパシーが多くの IPV を説明
- 女性: 主にサイコパシーが多くの IPV を説明 + 経済的暴力をマキャベリアニズムが説明

Table 3.3  
Dark Triad の各側面を説明変数, 各 IPV 形態を目的変数とした回帰分析の結果 (N = 344)

	マキャベリアニズム				ナルシシズム				サイコパシー				R <sup>2</sup>
	B	95% CI		b*	B	95% CI		b*	B	95% CI		b*	
		LL	UL			LL	UL			LL	UL		
<b>女性 (N = 182)</b>													
身体的暴力	-0.001	-0.06	0.06	.00	0.04	-0.02	0.09	.11	0.06	-0.001	0.12	.16 <sup>†</sup>	.06 <sup>†</sup>
間接的暴力	0.03	-0.05	0.11	.06	0.07	-0.01	0.15	.14 <sup>†</sup>	<b>0.09</b>	<b>0.001, 0.18</b>	.17*	.09*	
支配・監視	0.13	-0.02	0.29	.14 <sup>†</sup>	0.09	-0.06	0.23	.10	0.13	-0.03	0.30	.13	.09*
言語的暴力	0.06	-0.05	0.18	.09	0.06	-0.06	0.17	.08	0.09	-0.04	0.21	.12	.05
性的暴力	-0.01	-0.05	0.04	-.02	-0.003	-0.04	0.04	-.01	<b>0.05</b>	<b>0.002, 0.10</b>	.17*	.05	
経済的暴力	<b>0.14</b>	<b>0.003, 0.28</b>	.16*		0.11	-0.02	0.24	.13	0.15	-0.002	0.30	.16 <sup>†</sup>	.12**
ストーキング	0.04	-0.04	0.11	.07	0.01	-0.07	0.08	.01	<b>0.12</b>	<b>0.03, 0.20</b>	.23**	.08*	
一般 IPV <sup>a</sup>	0.06	-0.01	0.12	.13 <sup>†</sup>	0.05	-0.01	0.11	.13	<b>0.10</b>	<b>0.03, 0.17</b>	.22**	.14**	
<b>男性 (N = 162)</b>													
身体的暴力	-0.04	-0.11	0.04	-.08	-0.04	-0.13	0.04	-.09	<b>0.12</b>	<b>0.04, 0.20</b>	.25**	.05	
間接的暴力	-0.03	-0.11	0.06	-.05	-0.04	-0.14	0.05	-.07	<b>0.22</b>	<b>0.12, 0.32</b>	.37***	.13*	
支配・監視	0.04	-0.10	0.18	.05	-0.004	-0.16	0.15	-.01	0.12	-0.04	0.27	.13	.02
言語的暴力	0.01	-0.11	0.12	.01	0.04	-0.09	0.17	.05	<b>0.21</b>	<b>0.08, 0.34</b>	.27**	.09*	
性的暴力	0.09	-0.03	0.21	.11	-0.01	-0.14	0.13	-.01	<b>0.29</b>	<b>0.15, 0.43</b>	.35***	.16**	
経済的暴力	-0.03	-0.11	0.06	-.05	0.04	-0.07	0.13	.06	<b>0.10</b>	<b>0.002, 0.20</b>	.18*	.06	
ストーキング	-0.06	-0.15	0.04	-.09	-0.01	-0.12	0.10	-.02	<b>0.18</b>	<b>0.07, 0.29</b>	.28**	.09*	
一般 IPV <sup>a</sup>	0.00	-0.07	0.07	.00	-0.004	-0.08	0.08	-.01	<b>0.18</b>	<b>0.10, 0.26</b>	.36***	.14**	

<sup>†</sup>p < .01, \*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001

<sup>a</sup>一般 IPV のみを目的変数とした単変量重回帰分析を行なった。

Note. 年齢は統制した。

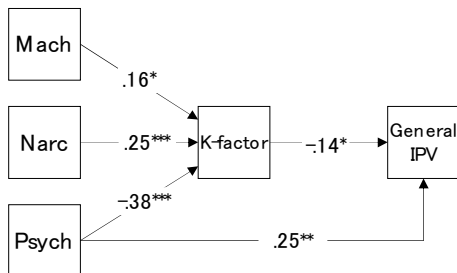
□ 結果: 媒介分析 (Table 3.4)

- 男性: サイコパシー → 一般 IPV を K-factor が媒介
  - ✓ ※ K-factor → 一般 IPV が n.s.
- 女性: サイコパシー → 一般 IPV の直接効果のみ
  - ✓ ※ 係数の符号は男性と一致
- 性別をプール (Figure 3.1) : サイコパシー → 一般 IPV を K-factor が媒介
  - ✓ ※ K-factor → 一般 IPV も有意
  - ✓ ナルシシズム → 一般 IPV への間接効果も有意だが, 回帰分析ではナルシシズム → 一般 IPV が有意ではないので積極的な解釈を避けた。

Table 3.4  
Dark Triad の各側面を説明変数, 一般 IPV を目的変数, K-factor を媒介変数とした媒介分析の結果 (N = 344)

	女性 (N = 182)			男性 (N = 162)		
	95% CI (5000 bootstraps)			95% CI (5000 bootstraps)		
	b	LL	UL	b	LL	UL
<b>直接効果</b>						
一般 IPV <-						
マキャベリアニズム	0.06	[-0.001, 0.12]		0.03	[-0.07, 0.11]	
ナルシシズム	0.05	[-0.02, 0.14]		0.03	[-0.11, 0.17]	
サイコパシー	<b>0.10</b>	<b>[0.02, 0.18]</b>		<b>0.13</b>	<b>[0.01, 0.27]</b>	
K-factor	-0.01	[-0.10, 0.09]		-0.09	[-0.18, 0.004]	
K-factor <-						
マキャベリアニズム	-0.02	[-0.13, 0.10]		0.31	[0.09, 0.52]	
ナルシシズム	0.13	[0.01, 0.27]		0.43	[0.27, 0.61]	
サイコパシー	<b>-0.23</b>	<b>[-0.37, -0.09]</b>		<b>-0.48</b>	<b>[-0.68, -0.28]</b>	
<b>間接効果</b>						
一般 IPV <- K-factor <-						
マキャベリアニズム	0.00	[-0.01, 0.01]		<b>-0.03</b>	<b>[-0.08, -0.002]</b>	
ナルシシズム	-0.002	[-0.02, 0.01]		-0.04	[-0.08, 0.00]	
サイコパシー	0.003	[-0.02, 0.03]		<b>0.04</b>	<b>[0.002, 0.09]</b>	

Note. 年齢は統制した。



\*p < .05, \*\*p < .01, \*\*\*p < .001

Figure 3.1. 性別をプールした媒介分析モデルの結果 (N = 344)。係数は標準偏回帰係数を示す。また, 年齢は統制した。

### 3.2. モデル検証 2: IPV メカニズムのさらなる検証

- モデル検証 1 にはいくつかの問題点がある。
  - － パートナー関係維持行動が IPV を予測するか?
    - ✓ IPV はパートナー関係維持行動の 1 つ (Buss & Duntley, 2011)
  - － K-factor から Dark Triad へのパスを想定する方が自然では?
    - ✓ 生活史戦略は様々な心理メカニズム, 行動パターン of 究極要因
  - － 高次概念同士の検証が必要では?
    - ✓ 生活史理論はより上位の理論 (中間レベルの理論; Buss, 2015) であるため, より包括的な概念同士の関連性を検証することが一般的 (Figueredo et al., 2004, 2005, 2014)
  
- → SEM により, 高次概念を潜在変数として抽出し, 潜在同士の関連性を検証
  - － K-factor → Dark Triad → パートナー関係維持行動 → 一般 IPV
  - － 年齢, 性別は統制変数
    - ✓ 最終的なモデル検証において, 性別をグループ化変数とした多母集団同次分析を行った結果, 等値モデルと非等値モデルに有意な差が示されなかったため ( $\Delta\chi^2(9) = 13.57, p = .14$ ), 儉約性にに基づき性別をプールし, 補助的に統制変数とした。
  
- 方法
  - － 参加者: 交際経験のある大学生 380 名 (女性 212 名, 男性 168 名;  $M_{age} = 18.9, SD = 1.20$ )
  - － 測定: IPV 尺度, Mini-K-J, SD3-J, パートナー関係維持行動尺度日本語版
    - ✓ IPV 尺度: 調査 1 で作成した 21 項目, 5 件法 (まったくない～よくある)
    - ✓ Mini-K-J (Kawamoto, 2015): 生活史戦略 (K-factor) を測定する 20 項目, 7 件法 (まったくあてはまらない～よくあてはまる)
      - ※ただし, 分析には 2.2 に基づき項目 6, 9, 10, 20 を除外
    - ✓ Short Dark Triad 日本語版 (SD3-J; 下司・小塩, 2017): Dark Triad の各側面を 9 項目で測定する, 7 件法 (まったくあてはまらない～とてもあてはまる)
    - ✓ パートナー関係維持行動尺度日本語版 (寺島, 2010): パートナー関係維持行動の 5 領域を測定する 38 項目, 4 件法 (一度もおこなったことはない～しばしばおこなったことがある)
  - － 分析: それぞれの尺度で, 下位次元の得点として項目の平均得点を用い, 高次概念を SEM により潜在変数として抽出した。その後, 媒介分析を行った。
  
- 結果: 観測変数の記述統計と性差 (Appendix N), および相関 (Appendix Q) は割愛
- 結果: 媒介分析 (Table 3.9, Appendix O, P)
  - － K-factor → IPV の直接効果が有意
  - － K-factor → Dark Triad → パートナー関係維持行動 → 一般 IPV の間接効果が有意
    - ✓ 仮説支持

Table 3.9  
媒介分析の結果 (N = 380)

	B	95% CI (5000 bootstraps)	
		LL	UL
<b>直接効果</b>			
一般 IPV ←			
パートナー関係維持行動因子	0.63	[ 0.39 , 0.90 ]	
Dark Triad 因子	0.06	[ -0.10 , 0.26 ]	
K-factor	-0.25	[ -0.47 , -0.12 ]	
(K-factor)	-0.28	[ -0.60 , -0.11 ]	
パートナー関係維持行動 ←			
Dark Triad 因子	0.44	[ 0.28 , 0.68 ]	
K-factor	0.10	[ -0.07 , 0.31 ]	
Dark Triad 因子 ←			
K-factor	-0.28	[ -0.72 , -0.04 ]	
<b>間接効果</b>			
一般 IPV 因子 ← パートナー関係維持行動因子 ←			
Dark Triad	0.28	[ 0.15 , 0.51 ]	
K-factor	0.06	[ -0.04 , 0.21 ]	
一般 IPV 因子 ← Dark Triad 因子 ←			
K-factor	-0.02	[ -0.11 , 0.02 ]	
一般 IPV 因子 ← パートナー関係維持行動因子 ← Dark Triad 因子 ← K-factor	-0.08	[ -0.25 , -0.02 ]	

Note. ( ) 内は媒介変数を含めない場合の係数を示す。ここで示される変数はすべて潜在変数である。なお、各偏回帰係数は年齢と性別が統制されている。

## 4. 総括と展望

### 4.1. 知見のまとめ

- IPV メカニズムについて個人差に着目し明らかにする。
  - － 究極要因: 生活史戦略
  - － 至近要因: Dark Triad
- IPV 尺度の作成と, Mini-K-J の大学生への応用可能性を示す。
- 究極要因として生活史戦略が, 至近要因として Dark Triad が, パートナー関係維持行動の一つとしての IPV を説明することを明らかにした。

### 4.2. 限界点と今後の展望

- 女性の IPV の進化的基盤が不明瞭
  - － IPV はパートナー関係維持行動の 1 つ (Buss & Duntley, 2011)
  - － 一時的に強力なパートナー支配
    - ✓ 男性: 一時的に多くの異性と性関係を持つことで適応度上昇 → IPV の効力を説明可能
    - ✓ 女性: 多くの性関係は適応度に直結しない。女性の短期配偶とその適応的意義は?
      - 良い遺伝子をゲットする: 支配する必要はない
      - 長期的配偶のための査定, パートナーを変更するため, パートナーを嫉妬させるため: 一時的支配では意味がない
      - パートナーからリソースを引き出す: リソースを引き出せるとき (交際初期?) に独占し (一時的支配), それを繰り返す, という可能性?

- ※ただし、本研究では検証できない。

□ 個人特性のみ

- － 日常的な変動のある感情，特に不安，嫉妬，怒りなどのネガティブ感情は IPV のトリガー (Birkley & Eckhardt, 2015; Buss & Duntley, 2011; Walker, 1979 齋藤訳 1997)
- － パートナーとの相互作用 (Giordano et al., 2010; Straus, 2008)

□ 横断研究による 1 時点データ

- － 生涯発達を通して個人特性は変化する可能性 (Ellis, 2011; 遠藤, 2005; Kawamoto & Endo, 2015) → その時の IPV の変化は?
- － 遺伝×環境相互作用は? (安藤, 2014; Barnes et al., 2013; 遠藤, 2005; Figueredo et al., 2006; Vernon et al., 2008)

□ 実務応用に至っていない

- － 臨床群への一般化可能性は?
- － メカニズムを踏まえて教育的介入・予防が可能か?

□ IPV リスクファクターは Dark Triad, 生活史戦略ですべて説明可能か?

- － 1.2, 1.3 から理論的には説明可能であると考えられるが，本研究では実際の変数として扱っていない。

□ 構成概念に関する諸問題

- － 本研究では高次概念同士の関連性に重点を置いたが，各下位次元で異なる関連が示されている。
- － 高次概念同士の関連が有意だったものの，効果量は大きなものではない

□ サンプルの一般性

- － 単一の大学を対象としており，平均年齢は 20 歳未満

□ 自己報告によるデータ収集

- － 認知バイアスがあるかも。
- － 客観的指標で検証する必要がある。

#### 4.3. ヒトの本質的理解へ向けて

□ 進化心理学的アプローチ

- － これまでの研究は主に至近要因が着目された。
- － ⇨ 人の心のメカニズムを本質的に捉えるためには，より包括的な視点が必要
- － 進化心理学的アプローチはその 1 つ

## □ 個人差への進化心理学的アプローチ

- これまでの進化心理学的アプローチはヒトに一般的な側面への着目
- ⇔ 個人差も同様に重要であり、進化的視点からとらえ直すことで、ヒトの本質的理解により近づくと考えられる。

## 引用文献

- 安藤 寿康 (2014). 遺伝と環境の心理学——人間行動遺伝学入門 (心理学の世界—専門編)—— 培風館
- Archer, J. (2013). Can evolutionary principles explain patterns of family violence? *Psychological bulletin*, 139, 403-440. doi:10.1037/a0029114
- Barnes, J. C., TenEyck, M., Boutwell, B. B., & Beaver, K. M. (2013). Indicators of domestic/intimate partner violence are structured by genetic and nonshared environmental influences. *Journal of psychiatric research*, 47, 371-376. doi: 10.1016/j.jpsychires.2012.10.016
- Benson, J., & Fleishman, J. A. (1994). The robustness of maximum likelihood and distribution-free estimators to non-normality in confirmatory factor analysis. *Quality and Quantity*, 28, 117-136.
- Birkley, E. L., & Eckhardt, C. I. (2015). Anger, hostility, internalizing negative emotions, and intimate partner violence perpetration: A meta-analytic review. *Clinical Psychology Review*, 37, 40-56. doi: 10.1016/j.cpr.2015.01.002
- Book, A., Visser, B. A., & Volk, A. A. (2015). Unpacking “evil”: Claiming the core of the Dark Triad. *Personality and Individual Differences*, 73, 29-38. doi:10.1016/j.paid.2014.09.016
- Brüne, M. (2016). Borderline Personality Disorder: Why ‘fast and furious’? *Evolution, Medicine, and Public Health*, 2016, 52-66. doi: 10.1093/emph/eow002
- Buss, D. M. (2009). How can evolutionary psychology successfully explain personality and individual differences? *Perspectives on Psychological Science*, 4, 359-366. doi: 10.1111/j.1745-6924.2009.01138.x
- Buss, D. M. (2015). *Evolutionary psychology: The new science of the mind* (5th ed.). Psychology Press.
- Buss, D. M., & Duntley, J. D. (2011). The evolution of intimate partner violence. *Aggression and Violent Behavior*, 16, 411-419. doi: 10.1016/j.avb.2011.04.015
- Buss, D. M., & Schmitt, D. P. (1993). Sexual strategies theory: An evolutionary perspective on human mating. *Psychological Review*, 100, 204-232.
- Buss, D. M., & Shackelford, T. K. (1997). From vigilance to violence: mate retention tactics in married couples. *Journal of Personality and Social Psychology*, 72, 346-361. doi: 10.1037/0022-3514.72.2.346
- Buss, D. M., Shackelford, T. K., & McKibbin, W. F. (2008). The mate retention inventory-short form (MRI-SF). *Personality and Individual Differences*, 44, 322-334. doi:10.1016/j.paid.2007.08.013
- Carter, G. L., Campbell, A. C., & Muncer, S. (2014). The Dark Triad: Beyond a ‘male’ mating strategy. *Personality and Individual Differences*, 56, 159-164. doi:10.1016/j.paid.2013.09.001
- Copp, J. E., Giordano, P. C., Longmore, M. A., & Manning, W. D. (2015). Stay/Leave decision-making in non-violent and violent dating relationships. *Violence and Victims*, 30, 581-599. doi: 10.1891/0886-6708.VV-D-13-00176
- Christie, R., & Geis, F. L. (1970). *Studies in Machiavellianism*. New York: Academic Press.
- Dillon, G., Hussain, R., Loxton, D., & Rahman, S. (2013). Mental and physical health and intimate partner violence against women: A review of the literature. *International Journal of Family Medicine*, 2013, 313909. doi: 10.1155/2013/313909
- Douglas, K. S., & Dutton, D. G. (2001). Assessing the link between stalking and domestic violence. *Aggression and Violent Behavior*, 6, 519-546. doi: 10.1016/S1359-1789(00)00018-5
- Ellis, B. J. (2011). Toward an evolutionary-developmental explanation of alternative reproductive strategies: The central role of switch-controlled modular systems. In D. M. Buss & P. H. Hawley (Eds.), *The evolution of personality and individual differences* (pp. 177-209). New York: Oxford University Press.
- 遠藤 利彦 (2005). 第 1 章 発達心理学の新しいかたちを探る 遠藤利彦 (編) 発達心理学の新しいかたち (pp. 3-52) 誠信書房
- Fals-Stewart, W., Leonard, K. E., & Birchler, G. R. (2005). The occurrence of male-to-female intimate partner violence on days of men's drinking: The moderating effects of antisocial personality disorder. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 73, 239-248. doi: 10.1037/0022-006X.73.2.239
- Figueredo, A. J., Gladden, P. R., & Beck, C. J. A. (2011). Intimate partner violence and life history strategy. In A. Goetz & T. Shackelford (Eds.), *The Oxford Handbook of Sexual Conflict In Humans*, Chapter 5 (pp. 72-99). New York, NY: Oxford University Press.
- Figueredo, A. J., Vásquez, G., Brumbach, B. H., & Schneider, S. M. (2004). The heritability of life history strategy: the k-factor, covitality, and personality. *Social Biology*, 51, 121-143. doi: 10.1080/19485565.2004.9989090
- Figueredo, A. J., Vásquez, G., Brumbach, B. H., Schneider, S. M., Sefcek, J. A., Tal, I. R., ... & Jacobs, W. J. (2006). Consilience and life history theory: From genes to brain to reproductive strategy. *Developmental Review*, 26, 243-275. doi:10.1016/j.dr.2006.02.002
- Figueredo, A. J., Vásquez, G., Brumbach, B. H., Sefcek, J. A., Kirsner, B. R., & Jacobs, W. J. (2005). The K-factor: Individual differences in life history strategy. *Personality and Individual Differences*, 39, 1349-1360. doi:10.1016/j.paid.2005.06.009
- Figueredo, A. J., Wolf, P. S. A., Olderbak, S. G., Gladden, P. R., Fernandes, H. B. F., Wenner, C., ... & Hohman, Z. J. (2014). The psychometric assessment of human life history strategy: A meta-analytic construct validation. *Evolutionary Behavioral Sciences*, 8, 148-185. doi: 10.1037/h0099837
- Furnham, A., Richards, S. C., & Paulhus, D. L. (2013). The Dark Triad of personality: A 10 year review. *Social and Personality Psychology Compass*, 7, 199-216. doi: 10.1111/spc3.12018
- Furnham, A., Richards, S., Rangel, L., & Jones, D. N. (2014). Measuring malevolence: Quantitative issues surrounding the Dark Triad of personality. *Personality and Individual Differences*, 67, 114-121. doi:10.1016/j.paid.2014.02.001
- Giordano, P. C., Soto, D. A., Manning, W. D., & Longmore, M. A. (2010). The characteristics of romantic relationships associated with teen dating violence. *Social Science Research*, 39, 863-874. doi:10.1016/j.ssresearch.2010.03.009

- Halpern, C. T., Oslak, S. G., Young, M. L., Martin, S. L., & Kupper, L. L. (2001). Partner violence among adolescents in opposite-sex romantic relationships: Findings from the National Longitudinal Study of Adolescent Health. *American Journal of Public Health, 91*, 1679-1685. doi: 10.2105/AJPH.91.10.1679
- Hart, S. D., & Hare, R. D. (1989). Discriminant validity of the Psychopathy Checklist in a forensic psychiatric population. *Psychological Assessment: A Journal of Consulting and Clinical Psychology, 1*, 211-218. doi: 10.1037/1040-3590.1.3.211
- 長谷川 寿一・長谷川 眞理子 (2000). 進化と人間行動 東京大学出版会
- Holtzworth-Munroe, A., & Stuart, G. L. (1994). Typologies of male batterers: Three subtypes and the differences among them. *Psychological Bulletin, 116*, 476-497. doi: 10.1037/0033-2909.116.3.476
- Jakobwitz, S., & Egan, V. (2006). The dark triad and normal personality traits. *Personality and Individual Differences, 40*, 331-339. doi:10.1016/j.paid.2005.07.006
- Jonason, P. K., Koenig, B. L., & Tost, J. (2010). Living a fast life: The dark triad and life history theory. *Human Nature, 21*, 428-442. doi: 10.1007/s12110-010-9102-4
- Jonason, P. K., Li, N. P., & Czarna, A. Z. (2013). Quick and dirty: Some psychosocial costs associated with the Dark Triad in three countries. *Evolutionary Psychology, 11*, 172-185. doi: 10.1177/147470491301100116
- Jonason, P. K., Webster, G. D., Schmitt, D. P., Li, N. P., & Crysel, L. (2012). The antihero in popular culture: Life history theory and the dark triad personality traits. *Review of General Psychology, 16*, 192-199. doi: 10.1037/a0027914
- Kawamoto, T. (2015). The translation and validation of the Mini-K scale in Japanese. *Japanese Psychological Research, 57*, 254-267. doi: 10.1111/jpr.12083
- Kawamoto, T., & Endo, T. (2015). Personality change in adolescence: Results from a Japanese sample. *Journal of Research in Personality, 57*, 32-42. doi: 10.1016/j.jrp.2015.03.002
- 喜入 暁 (2016). Dark Triad と 5 因子性格モデルとの関連 法政大学大学院紀要, 76, 49-54.
- Kiire, S. (2017). Psychopathy rather than Machiavellianism or narcissism facilitates intimate partner violence via fast life strategy. *Personality and Individual Differences, 104*, 401-406. doi: 10.1016/j.paid.2016.08.043
- 喜入 暁 (2017). パートナーに対する暴力の進化的基盤 法政大学大学院紀要, 79, 95-105.
- 喜入 暁・越智 啓太 (2015). 包括的なデートバイオレンス・ハラスメント尺度の開発 日本社会心理学会第 56 回大会発表論文集, 186.
- 喜入 暁・越智 啓太 (2016a). 親密なパートナーへの暴力 (IPV) 尺度の作成と妥当性の検証 (1) ——デモグラフィックデータとリスク行動 (飲酒・喫煙) に焦点を当てた分析—— 日本社会心理学会第 57 回大会発表論文集, 356.
- 喜入 暁・越智 啓太 (2016b). 親密なパートナーへの暴力 (IPV) 尺度の作成と妥当性の検証 (2) ——パーソナリティ (ASPD, BPD, Dark Triad) に焦点を当てた分析—— 日本パーソナリティ心理学会第 25 回大会発表論文集, 110.
- 切池 信夫・松永 寿人 (1995). 摂食障害と関連する人格 季刊精神科診断学, 6, 447-472.
- Lee, K., & Ashton, M. C. (2005). Psychopathy, Machiavellianism, and narcissism in the Five-Factor Model and the HEXACO model of personality structure. *Personality and Individual Differences, 38*, 1571-1582. doi:10.1016/j.paid.2004.09.016
- Lee, K., Ashton, M. C., Wiltshire, J., Bourdage, J. S., Visser, B. A., & Gallucci, A. (2013). Sex, power, and money: Prediction from the Dark Triad and Honesty-Humility. *European Journal of Personality, 27*, 169-184. doi: 10.1002/per.1860
- Mauricio, A. M., & Lopez, F. G. (2009). A latent classification of male batterers. *Violence and Victims, 24*, 419-438. doi: 10.1891/0886-6708.24.4.419
- McCrae, R. R., Costa Jr, P. T., Ostendorf, F., Angleitner, A., Hřebíčková, M., Avia, M. D., ... & Saunders, P. R. (2000). Nature over nurture: temperament, personality, and life span development. *Journal of Personality and Social Psychology, 78*, 173-186. doi: 10.1037/0022-3514.78.1.173
- McDonald, M. M., Donnellan, M. B., & Narvarete, C. D. (2012). A life history approach to understanding the Dark Triad. *Personality and Individual Differences, 52*, 601-605. doi:10.1016/j.paid.2011.12.003
- Melton, H. C. (2007). Predicting the occurrence of stalking in relationships characterized by domestic violence. *Journal of Interpersonal Violence, 22*, 3-25. doi: 10.1177/0886260506294994
- 箕浦 有希久・成田 健一 (2013). 2 項目自尊感情尺度の開発および信頼性・妥当性の検討 感情心理学研究, 21, 37-45. doi: 10.4092/jsre.21.37
- Muris, P., Merckelbach, H., Otgaar, H., & Meijer, E. (2017). The malevolent side of human nature: A meta-analysis and critical review of the literature on the Dark Triad (Narcissism, Machiavellianism, and Psychopathy). *Perspectives on Psychological Science, 12*, 183-204. doi: 10.1177/17456916166666070
- Nicolaidis, C., Curry, M. A., Ulrich, Y., Sharps, P., McFarlane, J., Campbell, D., ... & Campbell, J. (2003). Could we have known? A qualitative analysis of data from women who survived an attempted homicide by an intimate partner. *Journal of General Internal Medicine, 18*, 788-794. doi: 10.1046/j.1525-1497.2003.21202.x
- O'Boyle, E. H., Forsyth, D. R., Banks, G. C., Story, P. A., & White, C. D. (2015). A meta-analytic test of redundancy and relative importance of the dark triad and five-factor model of personality. *Journal of Personality, 83*, 644-664. doi: 10.1111/jopy.12126
- 越智 啓太・喜入 暁・甲斐 恵利奈・長沼 里美 (2015). 女性蔑視の態度とデートハラスメントの関連 法政大学文学部紀要, 70, 101-110.
- 越智 啓太・長沼 里美・甲斐 恵利奈 (2014). 大学生に対するデートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成 法政大学文学部紀要, 69, 63-74.
- Ohnishi, M., Nakao, R., Shibayama, S., Matsuyama, Y., Oishi, K., & Miyahara, H. (2011). Knowledge, experience, and potential risks of dating violence among Japanese university students: A cross-sectional study. *BMC Public Health, 11*, 339-346. doi: 10.1186/1471-2458-11-339
- 小塩 真司・阿部 晋吾・カトローニ ピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21, 40-52. Doi: 10.2132/personality.21.40
- Paulhus, D. L. & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality, 36*, 556-563. doi:10.1016/S0092-6566(02)00505-6
- Raskin, R. N., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports, 45*, 590-590. doi: 10.2466/pr0.1979.45.2.590
- Rauthmann, J. F., & Kolar, G. P. (2013). Positioning the Dark Triad in the interpersonal circumplex: The friendly-dominant narcissist, hostile-submissive Machiavellian, and hostile-dominant psychopath? *Personality and Individual Differences, 54*, 622-627. doi:10.1016/j.paid.2012.11.021

- Richardson, G. B., Chen, C. C., Dai, C. L., Brubaker, M. D., & Nedelec, J. L. (2017). The psychometrics of the Mini-K: Evidence from two college samples. *Evolutionary Psychology, 15*, 1-12. doi: 10.1177/1474704916682034
- Rothman, E. F., Johnson, R. M., Azrael, D., Hall, D. M., & Weinberg, J. (2010). Perpetration of physical assault against dating partners, peers, and siblings among a locally representative sample of high school students in Boston, Massachusetts. *Archives of Pediatrics and Adolescent Medicine, 164*, 1118-1124. doi:10.1001/archpediatrics.2010.229
- 下司 忠大・小塩 真司 (2017). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成 パーソナリティ研究, 26, 12-22. doi: 10.2132/personality.26.1.2
- Straus, M. A. (2008). Dominance and symmetry in partner violence by male and female university students in 32 nations. *Children and Youth Services Review, 30*, 252-275. doi: 10.1016/j.childyouth.2007.10.004
- Straus, M. A., & Douglas, E. M. (2004). A short form of the revised Conflict Tactics Scales, and typologies for severity and mutuality. *Violence and Victims, 19*, 507-520. doi: 10.1891/vivi.19.5.507.63686
- 杉山 宙・高橋 翠 (2015). 生活史理論のヒト発達への拡張——個人差とその発達に対する新たな視点 東京大学大学院教育研究科紀要, 55, 247-259.
- 田村 紋女・小塩 真司・田中 圭介・増井 啓太・ジョナソン ピーターカール (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 24, 26-37. doi: 10.2132/personality.24.26
- Temple, J. R., Shorey, R. C., Fite, P., Stuart, G. L., & Le, V. D. (2013). Substance use as a longitudinal predictor of the perpetration of teen dating violence. *Journal of Youth and Adolescence, 42*, 596-606. doi:10.1007/s10964-012-9877-1
- 寺島 瞳 (2010). 操作が二者関係の維持に及ぼす影響の検討 Retrieved from <https://kaken.nii.ac.jp/file/KAKENHI-PROJECT-20830011/315115.pdf> (2017年3月16日取得)
- Vagi, K. J., Rothman, E. F., Latzman, N. E., Tharp, A. T., Hall, D. M., & Breiding, M. J. (2013). Beyond correlates: A review of risk and protective factors for adolescent dating violence perpetration. *Journal of Youth and Adolescence, 42*, 633-649. doi: 10.1007/s10964-013-9907-7
- Vernon, P. A., Villani, V. C., Vickers, L. C., & Harris, J. A. (2008). A behavioral genetic investigation of the Dark Triad and the Big 5. *Personality and Individual Differences, 44*, 445-452. doi:10.1016/j.paid.2007.09.007
- Veselka, L., Schermer, J. A., & Vernon, P. A. (2011). Beyond the big five: The dark triad and the supernumerary personality inventory. *Twin Research and Human Genetics, 14*, 158-168. doi: 10.1375/twin.14.2.158
- Walker, L. E. (1979). *The Battered Woman*. Harper & Row. (ウォーカー, L. E. 斎藤学 (監訳) (1997). *バタードウーマン——虐待される妻たち* 金剛出版)
- Weinstein, Y., Gleason, M. E., & Oltmanns, T. F. (2012). Borderline but not antisocial personality disorder symptoms are related to self-reported partner aggression in late middle-age. *Journal of Abnormal Psychology, 121*, 692-698. doi: 10.1037/a0028994

## Appendices

※公開にあたり, Appendix A, B, C, G, H, I, L は省略した。

Appendix D. IPV 尺度の項目および各調査における確証的因子分析での因子負荷量

項目 <sup>a</sup>	調査 1 (N = 598)		調査 2 (N = 344)		調査 3 (N = 130)	
	被害 <sup>b</sup>	加害 <sup>b</sup>	被害 <sup>b</sup>	加害 <sup>b</sup>	被害 <sup>b</sup>	加害 <sup>b</sup>
<b>身体的暴力</b>	(.93)	(.91)	(.68)	(.68)	(.84)	(.67)
1. 相手に身体を平手で打たれたことがある (相手の身体を平手で打ったことがある)	.896	.868	.705	.925	.905	.525
8. 相手に身体を足で蹴られたことがある (相手の身体を足で蹴ったことがある)	.897	.864	.599	.701	.760	.573
15. 相手に顔面を平手で打たれたことがある (相手の顔面を平手で打ったことがある)	.903	.900	.735	.378	.764	.809
<b>間接的暴力</b>	(.89)	(.82)	(.68)	(.70)	(.72)	(.50)
2. 大声で怒鳴りつけられたり, 叫ばれたり, 罵られたことがある (大声で怒鳴りつけたり, 叫んだり, 罵ったことがある)	.875	.812	.657	.776	.868	.658
9. 机や壁を殴る, 蹴るなどして相手から脅かされたことがある (机や壁を殴る, 蹴るなどして相手を脅かしたことがある)	.886	.841	.592	.737	.699	.462
16. 意に沿わないからと言ってにらまれたことがある (意に沿わないことがあって相手をにらんだことがある)	.819	.729	.767	.573	.582	.533
<b>支配・監視</b>	(.79)	(.80)	(.64)	(.59)	(.73)	(.70)
3. 一日に何回もメールや電話をされたことがある (一日に何回もメールや電話をしたことがある)	.627	.664	.467	.386	.521	.595
10. 相手に異性の友人との付き合い(会うことや話すこと)を制限されたことがある (相手に異性の友人との付き合い(会うことや話すこと)を制限されたことがある)	.782	.818	.668	.779	.805	.743
17. 行き先を告げさせられたり報告させられたりしたことがある (相手に行き先を告げさせたり報告させたりしたことがある)	.839	.829	.776	.774	.828	.845
<b>言語的暴力</b>	(.80)	(.74)	(.56)	(.61)	(.60)	(.58)
4. 相手に見下されるような言い方をされたことがある (相手を見下すような言い方をしたことがある)	.834	.843	.590	.637	.664	.642
11. 「痩せろ」など, 体型のことに口を出されたことがある (「痩せろ」など体型のことに口を出したことがある)	.645	.574	.627	.650	.550	.393
18. 相手の趣味に合わない髪型や服装だと, 文句を言われたりしたことがある (自分の趣味に合わない髪型や服装だと, 馬鹿にしたり文句を言ったりしたことがある)	.815	.721	.537	.647	.525	.599
<b>性的暴力</b>	(.87)	(.88)	(.64)	(.78)	(.72)	(.56)

5. いやがっているのに性的な接触をしてることがある (いやがっているのに性的な接触をしたことがある)	.817	.862	.765	.752	.736	.706
12. いやがっているのに性的な話題をすることがある (いやがっているのに性的な話題をしたことがある)	.849	.835	.674	.737	.779	.715
19. 裸や見られたくない写真を撮ろうとすることがある (相手の裸や見られたくない写真を撮ろうとしたことがある)	.833	.824	.538	.534	.578	.404
<b>経済的暴力</b>	(.83)	(.70)	(.64)	(.67)	(.67)	(.63)
6. 貸したお金やものを返されなかったことがある (借りたお金やものを返さなかったことがある)	.791	.875	.510	.675	.581	.623
13. お金やものを貰がされたことがある (お金やものを貰がせたことがある)	.870	.790	.613	.755	.744	.561
20. デートの時などにお金を払わされることが多い (デートの時など相手にお金を払わせたことがある)	.706	.416	.548	.625	.612	.689
<b>ストーキング</b>	(.83)	(.86)	(.72)	(.63)	(.80)	(.72)
7. 別れようとするとうることを言って脅されたことがある (相手が別れようとしたときにうることを言って脅されたことがある)	.815	.850	.537	.500	.730	.584
14. 会いたくないのに無理を言って会いに来る (無理を言って相手に会いにいったことがある)	.781	.797	.676	.635	.800	.733
21. そろそろ帰りたいときでも帰してくれないことがある。 (相手がそろそろ帰りたい思っても帰さなかったことがある)	.770	.817	.764	.489	.748	.731
<b>一般 IPV</b>	(.95)	(.95)	(.88)	(.85)	(.89)	(.88)

<sup>a</sup> ( ) は加害経験を問う項目である。  
<sup>b</sup> ( ) 内は  $\alpha$  係数を示す。

Appendix E. 各調査における IPV 尺度の確証的因子分析での因子間相関

調査 No.	a			b			c			d			e			f			g		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
a. 身体的暴力	-	-	-	.90	.91	.62	.64	.27	.26	.79	.69	.48	.74	.14	.41	.83	.44	.39	.77	.61	.28
b. 間接的暴力	.82	.59	.70	-	-	-	.72	.54	.74	.85	.87	.99	.78	.08	.62	.79	.59	.86	.78	.57	.70
c. 支配・監視	.61	.17	.47	.67	.58	.53	-	-	-	.69	.44	.74	.61	.23	.51	.61	.37	.63	.79	.86	.72
d. 言語的暴力	.61	.43	.54	.70	.85	.62	.69	.79	.63	-	-	-	.82	.22	.87	.82	.70	.86	.75	.43	.82
e. 性的暴力	.64	.33	.48	.58	.62	.49	.61	.68	.51	.71	.88	.78	-	-	-	.83	.23	.40	.72	.50	.80
f. 経済的暴力	.68	.51	.26	.66	.62	.50	.56	.66	.59	.66	.70	.66	.72	.75	.52	-	-	-	.88	.62	.67
g. ストーキング	.69	.23	.39	.64	.66	.50	.64	.78	.72	.66	.61	.56	.73	.83	.64	.88	.86	.62	-	-	-

Note. 上三角行列は加害経験、下三角行列は被害経験における因子間相関を示す。5%水準で有意な組み合わせについては太字で示した。

Appendix F. 各調査における確証的因子分析および高次因子分析の適合度

	$\chi^2$	CFI	RMSEA	90% CI	SRMR
<b>調査 1 (N = 598)</b>					
被害確証的因子分析	269.90	.973	.032	[.025, .039]	.032
加害確証的因子分析	255.93	.971	.030	[.022, .037]	.034
被害高次因子分析	372.79	.949	.042	[.036, .048]	.048
加害高次因子分析	322.93	.953	.036	[.029, .042]	.042
<b>調査 2 (N = 344)</b>					
被害確証的因子分析	360.35	.854	.058	[.049, .066]	.057
加害確証的因子分析	333.02	.866	.053	[.045, .062]	.060
被害高次因子分析	402.86	.832	.059	[.052, .067]	.067
加害高次因子分析	415.98	.810	.061	[.053, .069]	.072
<b>調査 3 (N = 130)</b>					
被害確証的因子分析	361.60	.735	.094	[.081, .107]	.081
加害確証的因子分析	331.44	.674	.087	[.073, .100]	.091
被害高次因子分析	360.66	.755	.087	[.074, .100]	.090
加害高次因子分析	323.93	.717	.077	[.064, .091]	.092

Note. 確証的因子分析の自由度は 168, 高次因子分析の自由度は 182 である。



Appendix J. ESEM で示された因子負荷量 (N = 455)

項目	因子数	1		2		3			4				6					
		F1	F1	F2	F1	F2	f3	F1	F2	F3	F4	F1	F2	F3	F4	F5	F6	
1	私は何かできごとが起きたときに、そのできごとが次にどうなるか分かる	.125	.101	.023	<b>.486</b>	-.065	-.088	<b>.517</b>	-.049	-.033	-.071	<b>.552</b>	-.044	-.014	-.054	-.053	.022	
2	私は今の状況に対処するため、どのように今の状況に至ったのかを理解しようとする	.292	.215	.093	<b>.592</b>	-.012	-.013	<b>.591</b>	.077	.004	-.039	<b>.689</b>	.045	.024	-.013	.009	-.043	
3	私は、好ましくない状況の良い面を見つけようとする	.291	.217	.101	<b>.362</b>	.036	.079	<b>.371</b>	-.010	.061	.087	<b>.312</b>	-.020	.018	.060	.109	.026	
4	私は、自分が抱えている問題を解決するまで投げ出さない	<b>.443</b>	<b>.340</b>	.158	<b>.416</b>	.082	.184	<b>.427</b>	.002	.112	.184	.251	.039	.231	.120	.139	.055	
5	私は何かをするときに、あらかじめ計画を立てる	<b>.332</b>	<b>.339</b>	-.004	<b>.356</b>	-.071	.209	<b>.360</b>	.000	-.045	.211	.018	-.027	<b>.962</b>	-.001	.008	-.023	
6	私は何かをするときに、危ない橋を渡るようなことはしない	.182	.208	-.054	.209	-.090	.119	.126	.206	-.113	.058	-.070	.063	.289	-.058	-.049	.293	
7	子どものころ、私は自分の実の母親と、温かく親密な関係を築いていた	<b>.554</b>	<b>.438</b>	.153	.200	.118	.355	.023	<b>.695</b>	-.006	.141	.040	<b>.381</b>	.072	.083	.244	.084	
8	子どものころ、私は自分の実の父親と、温かく親密な関係を築いていた	<b>.490</b>	<b>.325</b>	.210	.189	.180	.242	-.030	<b>.888</b>	.020	-.047	-.006	<b>1.343</b>	-.016	-.012	-.009	-.014	
10	私は自分のパートナーと、温かく親密な、互いに愛し合う関係を築いている	<b>.470</b>	<b>.354</b>	.169	.146	.145	.287	.080	.179	.130	.227	.100	.064	-.050	.140	.202	.254	
11	私は同時に複数のパートナーと性的な関係を持つより、一人の人と関係を持っていたい	<b>.389</b>	<b>.339</b>	.074	.176	.045	.262	.117	.109	.046	.230	.038	-.037	-.015	.039	-.015	<b>.892</b>	
12	私は人と親密な関係を築かなければ、その人と抵抗なく性的な関係を持つことができない	.235	.294	-.081	.088	-.095	.254	.042	.069	-.090	.232	-.071	.014	.024	-.096	.071	<b>.551</b>	
13	私は自分と血のつながった親戚とよく連絡を取ったりする	<b>.451</b>	.009	<b>.695</b>	-.087	<b>.713</b>	.045	-.098	.056	<b>.695</b>	.029	-.085	.037	-.005	<b>.702</b>	.035	-.012	
14	私と血のつながった親戚は、私の気持ちを支えてくれたり、手助けをしてくれたりする	<b>.544</b>	.007	<b>.885</b>	.044	<b>.873</b>	-.004	.053	-.007	<b>.872</b>	.007	.043	-.023	.005	<b>.883</b>	.003	.004	
15	私は、自分と血のつながった親戚の気持ちを支えたり、何かしらの手助けをしたりする	<b>.519</b>	-.026	<b>.892</b>	.001	<b>.894</b>	-.025	.012	-.011	<b>.894</b>	-.015	-.011	.002	.003	<b>.893</b>	-.024	.005	
16	私は友達とよく連絡を取ったりする	<b>.636</b>	<b>.699</b>	-.016	-.036	-.016	<b>.723</b>	-.033	.036	.000	<b>.695</b>	-.014	.021	.011	-.012	<b>.707</b>	-.016	
17	私の友だちは、私の気持ちを支えてくれたり、手助けをしてくれたりする	<b>.743</b>	<b>.823</b>	.009	-.049	-.001	<b>.878</b>	-.035	-.014	.025	<b>.880</b>	-.050	-.012	.010	.011	<b>.888</b>	-.009	
18	私は友達のことを支えたり、何かしらの手助けをしたりする	<b>.683</b>	<b>.791</b>	-.048	.007	-.056	<b>.798</b>	.026	-.019	-.025	<b>.792</b>	.029	-.018	-.029	-.044	<b>.798</b>	.024	
19	私は自分が住む地域に愛着を持っているし、積極的に関わっている	<b>.481</b>	<b>.434</b>	.086	.147	.059	<b>.376</b>	.134	.059	.069	<b>.352</b>	.070	.025	.106	.080	<b>.359</b>	-.008	
因子間相関		F2	<b>.385</b>		<b>.295</b>			<b>.250</b>				.147						
		F3			<b>.350</b>	<b>.391</b>		<b>.228</b>	<b>.363</b>			.292	.121					
		F4						<b>.316</b>	<b>.422</b>	<b>.352</b>		<b>.238</b>	.259	.126				
		F5										<b>.273</b>	.269	.317	<b>.375</b>			
		F6										<b>.187</b>	.190	.065	<b>.189</b>	<b>.352</b>		
測定時に除外された項目																		
9	私は自分の子どもと、温かく親密な関係を築いている。																	
20	私は自分の信じる宗教を大事にしているし、積極的に関わっている。																	

Note. .30 以上の因子負荷量を太字で示した。また、5%水準で有意な因子間相関を太字で示した。

Appendix K. 各モデルにおける CFA による因子負荷量 (N = 455)

	Model 0	Model 1	Model 2	Model 3
<b>F1 先読み・計画性・統制性</b>				
1 私は何かできごとが起きたときに、そのできごとが次にどうなるか分かる	.313	.319	.319	.320
2 私は今の状況に対処するため、どのように今の状況に至ったのかを理解しようとする	.485	.493	.493	.493
3 私は、好ましくない状況の良い面を見つけようとする	.446	.446	.446	.447
4 私は、自分が抱えている問題を解決するまで投げ出さない	.664	.654	.654	.654
5 私は何かをするときに、あらかじめ計画を立てる	.484	.486	.486	.484
<b>F2 両親との関係の質</b>				
7 子どものころ、私は自分の実の母親と、温かく親密な関係を築いていた	.887	.893	.893	.893
8 子どものころ、私は自分の実の父親と、温かく親密な関係を築いていた	.736	.731	.731	.731
<b>F3 パートナー間の絆</b>				
11 私は同時に複数のパートナーと性的な関係を持つより、一人の人と関係を持っていたい	.928	.949	.949	.949
12 私は人と親密な関係を築かなければ、その人と抵抗なく性的な関係を持つことができない	.523	.512	.512	.512
<b>F4 親族との関わり</b>				
13 私は自分と血のつながった親戚とよく連絡を取ったりする	.699	.699	.699	.699
14 私は血のつながった親戚は、私の気持ちを支えてくれたり、手助けをしてくれたりする	.890	.889	.889	.889
15 私は、自分と血のつながった親戚の気持ちを支えたり、何かしらの手助けをしたりする	.882	.882	.882	.882
<b>F5 友人との関わり</b>				
16 私は友達とよく連絡を取ったりする	.698	.698	.698	.698
17 私の友だちは、私の気持ちを支えてくれたり、手助けをしてくれたりする	.872	.873	.873	.873
18 私は友達の気持ちを支えたり、何かしらの手助けをしたりする	.784	.783	.783	.783
19 私は自分が住む地域に愛着を持っているし、積極的に関わっている	.452	.452	.452	.452
<b>ソーシャルサポート</b>				
F2 両親との関係の質		.634	.634	
F4 親族との関わり		.522	.522	
F5 友人との関わり		.755	.755	
<b>K-factor</b>				
F1 先読み・計画性・統制性			.606	
F3 パートナー間の絆			.403	
ソーシャルサポート			1.049	
<b>K-factor</b>				
F1 先読み・計画性・統制性				.630
F2 両親との関係の質				.635
F3 パートナー間の絆				.416
F4 親族との関わり				.523
F5 友人との関わり				.757

Appendix M. ベースモデル (Model 0) の因子間相関 (N = 455)

	F1	F2	F3	F4
F1. 先読み・計画性・統制性				
F2. 両親との関係の質	.354			
F3. パートナー間の絆	.249	.275		
F4. 親族との関わり	.359	.368	.207	
F5. 友人との関わり	.500	.484	.333	.367

Appendix N. モデル検証 2 で測定した指標の記述統計量と性差 (N = 380)

	$\alpha$	全体 (N = 380)		女性 (N = 212)		男性 (N = 168)		$t$	$d$
		$M$	(SD)	$M$	(SD)	$M$	(SD)		
マキャベリアニズム	.72	4.86	(0.79)	4.74	(0.55)	5.01	(0.69)	-3.23 **	-.338
ナルシシズム	.78	3.33	(0.94)	3.26	(0.83)	3.42	(0.94)	-1.57	-.163
サイコパシー	.64	3.28	(0.85)	3.13	(0.61)	3.46	(0.79)	-3.99 ***	-.418
Dark Triad	.82	3.82	(0.65)	3.71	(0.36)	3.96	(0.46)	-3.84 ***	-.401
パートナーの監視	.71	1.49	(0.52)	1.42	(0.27)	1.58	(0.25)	-3.02 **	-.310
パートナーへの否定的関わり	.86	1.49	(0.55)	1.46	(0.32)	1.53	(0.27)	-1.29	-.132
パートナーへの肯定的関わり	.84	2.13	(0.59)	2.02	(0.36)	2.28	(0.30)	-4.38 ***	-.449
公への所有のサイン	.75	1.89	(0.60)	1.82	(0.38)	1.98	(0.33)	-2.89 **	-.296
ライバルへの否定的関わり	.70	1.41	(0.47)	1.40	(0.24)	1.42	(0.19)	-0.43	-.044
パートナー関係維持行動	.93	1.71	(0.46)	1.65	(0.24)	1.79	(0.18)	-3.14 **	-.319
身体的暴力	.84	1.19	(0.56)	1.17	(0.30)	1.21	(0.32)	-0.79	-.083
間接的暴力	.81	1.20	(0.54)	1.20	(0.30)	1.20	(0.28)	-0.17	-.018
支配・監視	.66	1.76	(0.87)	1.66	(0.71)	1.90	(0.79)	-2.61	-.272
言語的暴力	.72	1.45	(0.72)	1.44	(0.48)	1.46	(0.56)	-0.29	-.030
性的暴力	.82	1.23	(0.57)	1.11	(0.16)	1.38	(0.50)	-4.73 ***	-.527
経済的暴力	.71	1.35	(0.65)	1.42	(0.48)	1.28	(0.34)	2.21 *	.225

ストーキング	.78	1.33	(0.63)	1.31	(0.41)	1.35	(0.39)	-0.72	-0.74
一般 IPV	.93	1.36	(0.52)	1.33	(0.26)	1.39	(0.29)	-1.37	-1.43
先読み・計画性・統制性	.48	4.54	(0.65)	4.57	(0.61)	4.52	(0.70)	0.60	.061
両親との関係の質	.69	5.51	(1.86)	5.56	(2.18)	5.44	(1.45)	0.83	.083
パートナー間の絆	.65	5.43	(2.05)	5.79	(1.53)	4.99	(2.34)	5.57 ***	.580
親族との関わり	.86	4.19	(2.42)	4.24	(2.60)	4.13	(2.18)	0.74	.074
友人との関わり	.75	5.46	(1.00)	5.64	(0.79)	5.25	(1.17)	3.81 ***	.396
K-factor	.78	4.94	(0.53)	5.05	(0.47)	4.80	(0.57)	3.38 ***	.347

† $p < .01$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

Note. Dark Triad, 生活史戦略の各側面のとりうる値の範囲は 1 から 7 である。パートナー関係維持行動の各領域のとりうる値の範囲は 1 から 4 である。IPV の各形態のとりうる値の範囲は 1 から 5 である。

Appendix O. モデル検証 2 において SEM により抽出した因子間の相関係数 (N = 380)

	1	2	3	4
1. Dark Triad	-	.40 **	.34 **	-.29 **
2. Mate Retention Behavior	.39 **	-	.73 **	-.11 †
3. General IPV	.36 **	.69 **	-	-.29 **
4. K-factor	-.23 **	-.02	-.23 **	-

† $p < .10$ , \*\* $p < .01$

Note. 上三角行列はゼロ次相関, 下三角行列は性別と年齢を統制した偏相関を示す。

Appendix P. 各高次因子から各下位因子 (平均得点による観測変数) への負荷量 (N = 380)

高次因子	下位因子 (観測変数)	負荷量	高次因子	下位因子 (観測変数)	負荷量	
一般 IPV 因子 ←	身体的暴力	.71	Dark Triad 因子 ←	マキャベリアニズム	.44	
	間接的暴力	.81		ナルシシズム	.46	
	支配・監視	.68		サイコパシー	.89	
	言語的暴力	.75		K-factor ←	先読み・計画性・統制性	.37
	性的暴力	.75			両親との関係の質	.50
	経済的暴力	.75			パートナー間の絆	.32
	ストーキング	.79			親族との関わり	.51
パートナー関係維持行動因子 ←	パートナーの監視	.76	友人との関わり	.76		
	パートナーへの否定的関わり	.85				
	パートナーへの肯定的関わり	.77				
	公への所有のサイン	.77				
	ライバルへの否定的関わり	.70				

## Appendix Q. モデル検証2で測定した指標同士の相関分析の結果 (N = 380)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	sex	age
1. マキャベリアニズム	-	.22**	.38**	.69**	.06	.07	.09†	.04	.11*	.04	-.01	.07	.16**	.15**	.18**	.10†	.10†	.17**	.12*	-.01	-.14**	-.07	-.14**	-.07	.17**	.03
2. ナルシシズム	.21**	-	.42**	.76**	.12*	.14**	.16**	.12*	.13**	.08	.18**	.17**	.21**	.19**	.24**	.35**	.22**	.28**	.28**	.05	-.17**	.12*	.09†	.15**	.08	.01
3. サイコパシー	.36**	.41**	-	.80**	.24**	.27**	.21**	.24**	.28**	.19**	.29**	.30**	.25**	.31**	.27**	.29**	.27**	.33**	-.01	-.22**	-.41**	-.06	-.18**	-.24**	.20**	.00
4. Dark Triad	.67**	.76**	.79**	-	.19**	.21**	.21**	.18**	.23**	.14**	.21**	.24**	.28**	.28**	.31**	.34**	.26**	.35**	.18**	-.08	-.32**	.00	-.10†	-.06	.20**	.02
5. 身体的暴力	.05	.12*	.24**	.18**	-	.75**	.43**	.55**	.61**	.59**	.60**	.78**	.42**	.46**	.28**	.29**	.41**	.44**	-.15**	-.13**	-.23**	.04	-.12*	-.16**	.03	.10*
6. 間接的暴力	.06	.14**	.28**	.21**	.75**	-	.49**	.64**	.63**	.67**	.68**	.84**	.48**	.54**	.36**	.35**	.50**	.53**	-.13*	-.10*	-.18**	-.03	-.24**	-.21**	.00	.18**
7. 支配・監視	.06	.15**	.19**	.18**	.43**	.49**	-	.58**	.50**	.54**	.62**	.77**	.51**	.61**	.57**	.52**	.41**	.64**	.03	-.02	-.10*	.02	-.12*	-.05	.13**	.12*
8. 言語的暴力	.03	.12*	.24**	.18**	.55**	.62**	.57**	-	.62**	.61**	.83**	.41**	.52**	.44**	.38**	.50**	.54**	.07	-.14**	-.18**	-.07	-.18**	-.19**	.01	.18**	.18**
9. 性的暴力	.07	.12*	.25**	.20**	.61**	.64**	.48**	.63**	-	.51**	.62**	.78**	.42**	.50**	.41**	.32**	.45**	.50**	-.13*	-.18**	-.28**	-.04	-.25**	-.26**	.23**	.11*
10. 経済的暴力	.05	.09†	.22**	.16**	.59**	.66**	.56**	.61**	.55**	-	.64**	.81**	.47**	.52**	.38**	.39**	.48**	.53**	-.12*	-.08	-.13*	.01	-.16**	-.14**	-.11*	.17**
11. ストーキング	-.03	.18**	.29**	.21**	.59**	.66**	.61**	.59**	.63**	.64**	-	.84**	.48**	.56**	.42**	.40**	.47**	.56**	-.08†	-.13*	-.23**	.01	-.16**	-.17**	.03	.19**
12. 一般 IPV	.05	.16**	.30**	.23**	.78**	.83**	.77**	.82**	.79**	.82**	.84**	-	.57**	.67**	.52**	.48**	.57**	.67**	-.10*	-.13*	-.23**	-.01	-.21**	-.20**	.06	.19**
13. パートナーの監視	.13*	.20**	.22**	.25**	.41**	.47**	.49**	.39**	.39**	.48**	.47**	.55**	-	.69**	.59**	.59**	.58**	.80**	-.05	-.08	-.22**	.02	-.13*	-.13*	.15**	.13**
14. パートナーへの否定的関わり	.13**	.18**	.30**	.28**	.46**	.54**	.60**	.52**	.50**	.53**	.56**	.66**	.69**	-	.65**	.64**	.65**	.89**	-.01	-.09†	-.15**	.01	-.08	-.09†	.06	.08
15. パートナーへの肯定的関わり	.15**	.23**	.24**	.28**	.27**	.35**	.55**	.43**	.37**	.41**	.41**	.51**	.57**	.65**	-	.71**	.49**	.87**	.11*	-.10†	-.14**	.07	-.05	.00	.22**	.10†
16. 公への所有のサイン	.07	.34**	.28**	.32**	.29**	.35**	.51**	.38**	.30**	.41**	.40**	.48**	.58**	.64**	.70**	-	.57**	.84**	.11*	-.06	-.15**	.14**	.03	.05	.14**	.02
17. ライバルへの否定的関わり	.09†	.22**	.27**	.26**	.40**	.50**	.41**	.50**	.45**	.49**	.47**	.57**	.58**	.65**	.50**	.57**	-	.75**	-.06	-.09†	-.19**	.01	-.09†	-.12*	.02	.04
18. パートナー関係維持行動	.14**	.27**	.31**	.33**	.43**	.52**	.63**	.54**	.48**	.55**	.55**	.67**	.80**	.89**	.86**	.84**	.75**	-	.04	-.10*	-.19**	.06	-.07	-.06	.15**	.09†
19. 先読み・計画性・統制性	.13*	.29**	.00	.19**	-.14**	-.12*	.04	-.06	-.12*	-.12*	-.07	-.09†	-.04	.00	.12*	.12*	-.06	.05	-	.15**	.18**	.22**	.28**	.61**	-.03	-.05
20. 両親との関係の質	.00	.05	-.21**	-.07	-.12*	-.09†	-.01	-.12*	-.16**	-.07	-.11*	-.11*	-.07	-.08	-.08	-.05	-.09†	-.09†	.15**	-	.16**	.28**	.38**	.57**	-.04	-.08
21. パートナー間の絆	-.10†	-.16**	-.37**	-.28**	-.23**	-.19**	-.07	-.19**	-.24**	-.17**	-.23**	-.22**	-.19**	-.14**	-.08	-.12*	-.19**	-.16**	.18**	.15**	-	.11*	.23**	.46**	-.28**	.02
22. 親族との関わり	-.06	.13*	-.06	.01	.05	-.02	.03	-.06	-.02	.01	.02	.00	.04	.02	.09†	.15**	.02	.08	.22**	.27**	.10†	-	.41**	.71**	-.04	-.07
23. 友人との関わり	-.11*	.11*	-.15**	-.06	-.10*	-.22**	-.08	-.16**	-.20**	-.16**	-.14**	-.18**	-.08	-.06	.01	.06	-.08	-.03	.27**	.37**	.18**	.41**	-	.75**	-.19**	-.13*
24. K-factor	-.04	.17**	-.22**	-.03	-.15**	-.19**	-.02	-.17**	-.22**	-.15**	-.15**	-.17**	-.09†	-.07	.05	.08	-.11*	-.02	.61**	.56**	.44**	.71**	.73**	-	-.17**	-.10*

† $p < .01$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ 

Note. Dark Triad, 生活史戦略の各側面のとりうる値の範囲は1から7である。パートナー関係維持行動の各領域のとりうる値の範囲は1から4である。IPVの各形態のとりうる値の範囲は1から5である。上三角行列はゼロ次相関, 下三角行列は性別と年齢を統制した偏相関である。